

山口大学レポート 2026





Contents

山口大学レポート 2026

- 02 学長挨拶
- 03 明日の山口大学ビジョン2030
- 05 実績
 - 教育 枠を超えた連携による持続的な教育革新
 - 研究 未来を拓く研究改革：山口大学におけるイノベーション・エコシステムと社会貢献
 - 地域 地域と共に、未来を創る大学へ
 - ダイバーシティ ダイバーシティキャンパスへの歩み～活力の源泉としての多様性～
 - 経営 教職員や学生が地域と共に元気に楽しく活躍できる
- 15 特集 工学部再編・情報学部新設
- 19 山口大学 Topics & News
- 24 財務データ・ガバナンス
 - 財務情報
 - 山口大学の内部統制体制について
- 31 山口大学基金
- 33 夢に挑戦、社会に貢献する山大病院
- 35 山口大学データ集
 - 山口大学の気になる数字
 - 入学志願者・入学状況
 - 卒業生・修了者の就職状況



しなやかに 未来を切り拓く 山口大学

学長挨拶

Greetings from the President

人は五感を鋭くして情報を集め、それを統合して判断を下してきました。現在、人の五感を補い、時に凌駕するセンサーが発達し、人工知能(AI)は人を超える能力で膨大な情報を瞬時に統合し、解を導き出します。しかし、AIに指示を与え、その結果をもとに的確な判断を下して実社会に活用していくのは、他ならぬ「人」の役割です。

山口大学は、常に変化する時代を切り拓く先端的研究を進め、同時に時代の要請に応える人材育成を行なっています。この目的のため、本年、2026年4月に「情報学部」の新設と「工学部」の再編を行います。新たに誕生する情報学部では、システム情報学、知能情報学、空間情報学、人間情報学の4分野を広く学修するとともに、分野に対応した4つのコースを設け、人間中心の価値創造力の育成や、社会の多様な課題に対応できる先端IT人材の輩出を目指します。また、「工学部」において創設以来となる大規模な再編を行い、従来の7学科を「創成工学科」と「建築学科」の2学科に改組します。これにより、分野横断的に広く工学の基礎を学んだ上で専門性を深める、新しい時代のスタイルに合った教育を展開してまいります。

昨年、小中一貫校として統合した「教育学部附属光義務教育学校」、学部相当の教育課程として新設した「ひと・まち未来共創学環」、そして、文系大学院を再編、新たな専攻を加えてスタートした「人間社会科学研究所」では、すでに新入生を迎え順調に発展しつつあります。本年はさらに、新生工学部、情報学部に入学生を迎え、教育の一層の充実をはかります。

1815年に長州藩士・上田鳳陽により創設された山口講堂を起源とする本学は、210年を超える歴史を経て、基幹総合大学へと発展しました。「発見し、はぐくみ、かたちにする知の広場」という理念のもと、多様な価値に共感・共鳴してつながる魅力あるダイバーシティキャンパスを形成しつつあります。同時に、総合大学が生み出す多様な知が共奏することにより、変化する社会をしなやかに先導したいと考えています。「山口大学レポート2026」は、こうした本学の2025年度の歩みをまとめた年報です。本レポートが、皆様に山口大学をより深くご理解いただくための一助となれば幸いです。今後とも温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2026年3月 山口大学長 谷澤 幸生

Cover Story



ひと・まち未来共創学環

ひと・まち未来共創学環は、令和7年4月に初めての新入生を迎えてスタート。心の豊かさやまちの豊かさの観点から、ひとや地域の課題発見、解決を目指し、新たな価値の創出につなげることをテーマに、すでに学内外で精力的に活動しています。

明日の山口大学ビジョン 2030

～知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学～

本学は、目まぐるしく変化する世の中にしなやかに対応し、時代のニーズに合った人材育成、研究、社会貢献を通じて、地域や世界に貢献するため、日々歩みを進めています。

2023年には谷澤学長体制の下で、「明日の山口大学ビジョン2030」(以下、ビジョン)を策定し、本学が2030年にあるべき姿・ありたい姿を示すとともに、その実現に向けた戦略及び施策を提示しました。ビジョンでは、中心的目標を〈知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学〉と定め、各種施策を通じて、地域に根ざし、時代に合った人材育成および知の発信を行っています。



明日の山口大学
ビジョン 2030
策定者
谷澤 幸生 学長

知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学



ビジョンの内容を分かりやすく伝えるために、国際総合科学部公認デザインサークルSIGNALの学生が、ビジョンのイラストを作成しました。大学ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。

明日の山口大学ビジョン2030

URL

https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/university_vision/



ビジョンの確実な実現に向けて

■ マイルストーンの設定と定期的な進捗確認

ビジョンの実現に向けて、3年ごと（2024年、2027年、2030年）に本学の目指す姿・ありたい姿を示すマイルストーンを設定しています。

また、マイルストーンを設定した3年ごとの状況について、自己点検・評価を実施することで、ビジョンの確実な実現に向けて歩みを進めていきます。

ビジョンの実現に向けた取組と実績

■ 自己点検・評価結果を踏まえて

2025年には、第1回目の自己点検・評価を実施し、ビジョン策定時から2025年6月（自己点検・評価実施時期）までの状況を振り返り、現状の把握と今後進むべき道を確認しました。

ビジョンを構成する教育、研究、地域、ダイバーシティ及び経営の5つの領域について、いずれもその実現に向けて着実に歩みを進めています。

教育領域では、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の3つの大学が協力するSPARC教育プログラムにより「文系DX人材」育成を開始し、2025年4月に「ひと・まち未来共創学環」を新設しました。

研究領域では、「細胞デザイン医科学研究所」をはじめ、4拠点をトップダウン型産学公連携研究拠点に認定し、オープンイノベーションを加速しました。また、「山口大学グリーン社会推進研究会」を強化し、脱炭素と地域イノベーションへ貢献しています。

地域領域では、県内企業や卒業生等の情報を一括管理するシステムを構築し、企業等との連携に活用しています。また、山口市・宇部市と連携して、地域課題の解決に向けた継続的な協議を行っています。

ダイバーシティ領域では、女性・若手・外国人研究者の積極的な登用や、留学生の積極的な受入、学生協働の実施により、ダイバーシティキャンパスの実現に向けて歩みを進めています。一方で、多様な個性・価値観を尊重するため、支援体制の拡充等にも取り組んでいます。

経営領域では、地域ニーズを踏まえ、学部・研究科等の設置・改組を行い、地域・社会に必要とされる人材育成を行う体制を作っています。さらに、学内のDXを推進し業務効率化を図るとともに、ワークライフバランスを重視した職場環境の実現を目指し、関係制度の整備・拡充等を行い、働きやすい職場環境の実現を進めています。

自己点検・評価結果の詳細は
本学ホームページよりご確認ください。

URL

https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/legal_public_information/jikotennkennhyoka-system/university-vision2030/



枠を超えた連携による持続的な教育革新

■ これまでの取組状況

教育ビジョンに係る5つの重点戦略の主要施策について、それぞれのマイルストーンの実現に向けて取り組み、その結果、大学間の枠を超えた地域連携・国際協働を強化し、STEAMやDXといった近未来のニーズをも踏まえた分野横断的なカリキュラムを導入しています。また、教学IR(Institutional Research)体制を確立し、入学から卒業「後」まで一貫してデータを活用することで、教育の質を「見える化」し、客観的な根拠に基づいたデータ駆動型の教育改革及び入試制度の改善を実現しています。大学院教育については、学部教育におけるSTEAM教育の取組を拡大し、「横断的共育科目群」を導入しました。分野の垣根を超えた多様な知識を修得することによって、多角的な視点から社会の諸課題を解決できる力を身につけることが可能となりました。学生支援体制については、カウンセラーによる丁寧で専門的な支援の強化に加え、学生自治会との連携を通して、学生の主体的な成長を促しています。さらに、「キャリアセンター」の開設により、学部生から大学院生まで一貫したキャリア形成の支援を実現しています。これらの取組により、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材の育成を進めています。



教育ビジョン
担当副学長
野崎 浩二

01 地域活性化人材育成事業 (SPARC) 教育プログラム

<SPARC教育プログラムの開発・試行>

本学が推進する地域活性化人材育成事業(以下、「SPARC」)では、well-beingの考え方に基づき、デジタル技術者と協力してDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し、人や地域(まち・文化・教育)の課題解決に貢献できる人材を「文系DX人材」と定義しています。この「文系DX人材」を育成するため、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学の国公私立3大学が連携し、右図の連携開設科目を含むSPARC教育プログラムを開発・実施しています。令和6年度は、山口大学53名、山口県立大学195名、山口学芸大学7名、合計255名の学生が履修しました。今後も本プログラムを通じて、地域の教育連携を強化していきます。

連携開設科目の開講・実施状況

連携開設科目(11科目)	提供大学	受講大学	実施済・実施中				実施予定	
			R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
DX概論	山口大	山口大・県立大・学芸大						
地域学	県立大	山口大・県立大・学芸大						
データ科学と社会Ⅰ	山口大	山口大・学芸大						
データ科学と社会Ⅱ	山口大	山口大・県立大・学芸大						
データ科学のための基礎数学	山口大	山口大・県立大・学芸大						
知的財産入門	山口大	山口大・県立大・学芸大						
統計学概論	山口大	山口大・県立大・学芸大						
人工知能概論	山口大	山口大・県立大・学芸大						
地域文化論	県立大	山口大・県立大						
デザイン思考論	県立大	山口大・県立大						
コミュニティデザイン論	県立大	山口大・県立大						

<ひと・まち未来共創学環の設置>

本学ではSPARC教育プログラムを活用した分野横断的な教育の開発・展開には、人間科学系リソースの再配置と一部理系学部の連携が必要で、新しい教育課程の設置も重要であると考え、令和7年度に「ひと・まち未来共創学環」を設置しました。



02 海外大学と連携した共創教育プログラムの実施

本学では、多様化する社会で価値を創造し、社会を切り拓く人材を育成するには、文化も背景も異なる様々な国籍の学生が融合し、チームを組み活動することが重要であると考えています。この考えに基づき、海外の大学と連携し、学生が国際合同チームを編成して対面・オンラインを組み合わせた「共創教育プログラム」を実施しています。この取組は、本学学生と海外学生が多様な価値観に触れ、互いに切磋琢磨することで、国際的な視野を持つ人材の育成を目指すものです。

(1)工学部 「Summer Program for Innovative Engineering Design(SPIED)」

(2)医学部保健学科 「アジア・太平洋地域における看護・健康科学のリーダー育成を目指した国際連携事業 (APAHL)」

(3)共同獣医学部 「One Health問題の解決に向けた獣医師育成プログラム」

(4)農学部 「熱帯性環境生物資源国際ネットワークを用いた情報科学プログラム」

(5)工学部 「北アリゾナ大学との学際的グローバル・プログラム」

(6)人文学部 「東呉大学との海外研修」

今後は、既存の国際交流協定を活用したものに加え、新規プログラムの創設を進め、全学的な協力体制のもと、多彩な教育・研究活動を海外展開に繋げることで、国際的視野を持つ人材育成を一層推進していきます。



03 教学IRの推進と実践

本学では、令和2年度から教学マネジメント室を設置し、教育改善のためのFD研修会の実施や教学IRの活用、教育の内部質保証に関する取組を行っています。

教学マネジメント室では、教学IRを推進するため、在学生調査、卒業時調査、卒業生調査、企業向け調査等を実施し、教育改善に必要なデータ収集を行っています。経験や勘に頼るのではなく、客観的なデータに基づいて教育の質を向上させる仕組みを構築するために、これらのデータを活用し、教育改善を推進しています。



▲ 教育改善FD研修会の様子

収集されたデータを使用し、令和6年度には、山口大学の9学部全てに対し、教学マネジメント室の教員が、各学部の個別データに基づく教育改善FD研修会を実施しました。この場では、これらのデータを基に、学生の現状とこれから改善が必要なことについて、共同で意見交換を行いました。また、教育改善を考えるきっかけとして、「データを元に山口大学の教育改善を考える」をテーマに、教学IRポスターを作成し、教職員等に周知しています。

さらに、教育の内部質保証に関する取組として、令和6年度には、全学部でのディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーの見直し、アセスメントプランの作成を主導しました。これにより、教学改善のPDCAサイクルの仕組みづくりに着手し、本学の教育活動の充実・発展に寄与しました。



▲ 教学IRポスター

未来を拓く研究改革：山口大学における イノベーション・エコシステムと社会貢献

■ これまでの取組状況

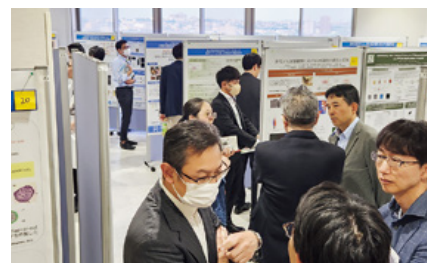
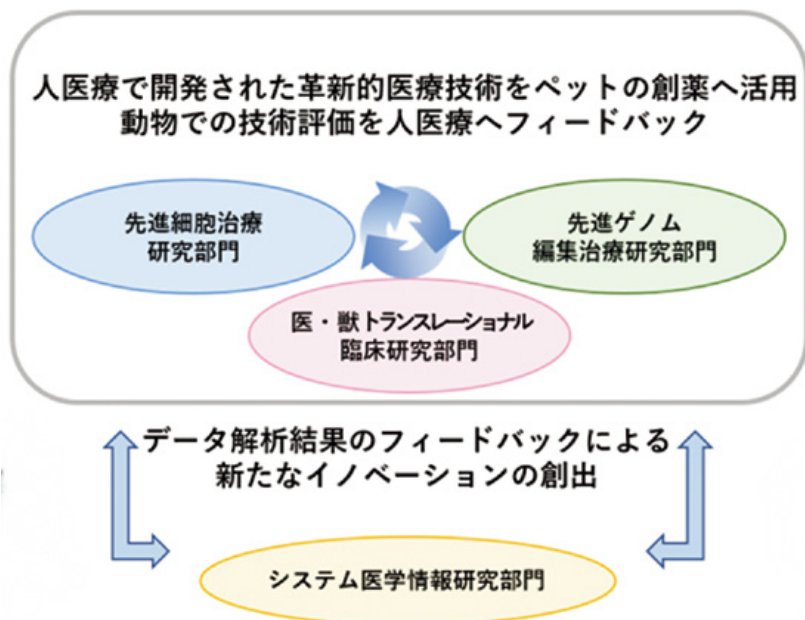
令和6年度末までに、「予防医学推進コホート研究センター」「地域レジリエンス研究センター」「細胞デザイン医科学研究所」「One Welfare国際研究センター」をトップダウン型産学公連携研究拠点に認定し、地域課題解決型のオープンイノベーションを着実に加速させています。時間学研究所の拡充、細胞デザイン医科学研究所の設立、また、先進的な医用AI技術の開発や個人情報保護に配慮した「院内完結型自然言語処理システム」の構築により、世界をリードする研究領域を創造しています。研究推進体の成果発信の支援を強化するとともに、認定から3年が経過した研究推進体の成果報告会を実施し、研究進捗の可視化とフィードバック体制を確立して、学際的基礎研究を推進しています。共用機器の利用実績や論文発表、外部資金獲得状況といった成果を把握するシステムを開発し、研究資源の効率的な活用と研究成果の最大化に貢献しています。「グリーン社会推進研究会」の活動を強化し、令和6年度末には会員数が276名（法人等の機関を含む）に達しており、地域課題解決とグリーン社会の実現に向けた具体的な足掛かりを創出しています。これらの取組により、社会のニーズ変化に対応した知を持続的に創出する体制の構築を確実に進めています。



研究ビジョン
担当副学長
佐藤 晃一

01 【人と動物の医療に革新】 細胞デザイン医科学研究所：医・獣トランスレーショナル研究を推進する拠点

細胞デザイン医科学研究所は、細胞デザインやゲノム編集といった最先端の医療技術に特化した日本初の研究所として令和5年10月に設立されました。目的に応じて細胞、遺伝子、微生物等を人工的に改変することで、がん等の難治性疾患の革新的な治療法や薬を創出し、人と動物の健康を支える国際研究開発拠点を目指しています。研究所の大きな特色は、人と動物の医療がともに進展するイノベーション・エコシステムの構築を目指している点です。人の先端医療を動物に応用し、動物で得られたデータを人医療にフィードバックする「医・獣トランスレーショナル研究」を推進しています。



▲【セル研コロキウム】
自由討論・交流セッション



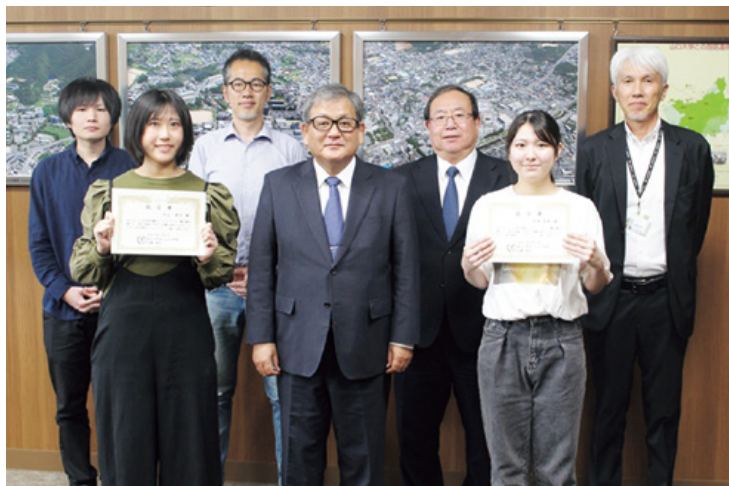
【研究機器インストラクター制度】 共用機器管理を通じた学生の専門性獲得と研究活動の活性化

「研究機器インストラクター制度」は、本学独自の研究活動加速化プログラムです。

教員・技術職員の指導の下、研究機器インストラクターに認定された学生が、学内の共用機器の利用支援と維持管理の主要な担い手となります。

この制度の最大の目的は、研究者や機器管理者の負担を大幅に軽減し、研究に専念できる時間の確保に貢献することです。これにより、本学の研究活動を一層加速させ、その質と量を高める重要な役割を果たしています。

さらに、支援を担う学生にとっても、機器の専門知識と実践的な管理能力を習得することで、自身の研究力向上と将来のキャリア形成に直接的に資するメリットも有しています。



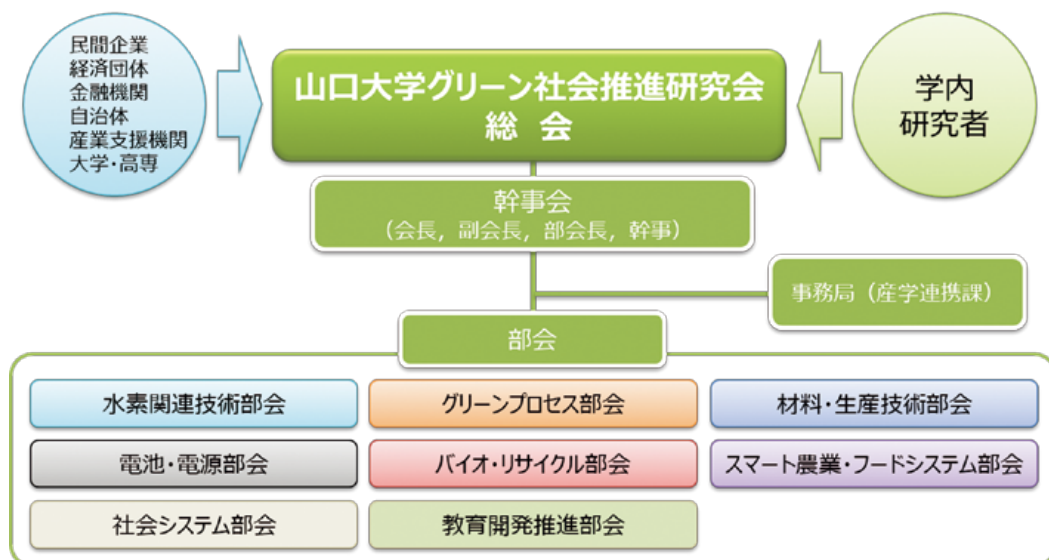
【総合知を結集】 山口大学グリーン社会推進研究会：脱炭素と地域イノベーションへの挑戦

山口大学グリーン社会推進研究会は、カーボンニュートラルの達成等、人類の存続に直結するグリーン社会の実現を目標に、令和4年3月に設立されました。

特に、温室効果ガス排出割合が大きい山口県において、地域ゼロカーボンに向けた取組を喫緊の課題としています。本研究会の最大の特色は、人文・社会科学から自然科学まで、大学の「総合知」を結集し、課題解決に貢献する点です。

この総合知を基に、水素関連技術、グリーンプロセス、社会システム、電池・電源等、多岐にわたる8つの専門部会を設置し、分野横断的な活動を行っています。本研究会設立以降、会員教員と会員企業等との共同研究・受託研究・学術指導は、合計32件・受入総額約5,500万円となっており、大きな成果を上げています。

この総合知を基に、水素関連技術、グリーンプロセス、社会システム、電池・電源等、多岐にわたる8つの専門部会を設置し、分野横断的な活動を行っています。本研究会設立以降、会員教員と会員企業等との共同研究・受託研究・学術指導は、合計32件・受入総額約5,500万円となっており、大きな成果を上げています。



地域と共に、未来を創る大学へ

■ これまでの取組状況

山口大学地域未来創生センターを中心に、県内企業や卒業生の情報を一括管理するステークホルダー管理システムを構築し、学長をトップとした地域企業等への積極的な働きかけを行ってきたことで本センターへの相談事例等が増加しています。キャンパスがある山口市及び宇部市との地域連携プラットフォームでは、地域課題の抽出と解決に向けての継続的な協議を行っています。山口県内の産学公金で構成する大学リーグやまぐちが示した「山口県の産業界が求める人材像」に基づき、山口県立大学及び山口学芸大学と連携して、令和5年3月に大学等連携推進法人の認定を受け、3大学によるSPARC教育プログラムを構築しました。それに基づき、山口大学では令和7年4月にひと・まち未来共創学環を設置して、文系DX人材の育成を開始しました。山口を研究フィールドとした「山口学」は、3年間支援するカテゴリーに加え、単年度支援プログラムを開始し、その成果を毎年度、「山口学紀要」として発行し、山口学の普及を行っています。これらの取組により、地域が求める新たな人材の育成及び地域課題解決に向けた知の創出を行うとともに、地域のシンクタンクとしての機能を強化し、地域のステークホルダーの更なる信頼獲得に向けて、順調に基盤を固めています。



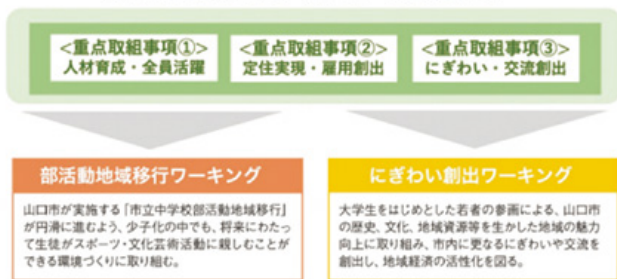
地域ビジョン
担当副学長
重松 宏武

01 地域から期待される知のシンクタンク

<地域未来創生センターの組織改革>

地域社会への貢献を通じて地域に開かれた大学を目指すため、地域未来創生センターを平成27年度に設置し、第4期中期目標期間では、地域未来創生センターの組織改革及び機能強化に取り組みました。令和4年度には、本学のキャンパスが所在する山口市域及び宇部市域の地域連携プラットフォームをそれぞれ創立し、両市の地域課題に産学公金が連携し取り組む仕組みを構築しており、その事務局として地域未来創生センターが活動する中で地域のさまざまなステークホルダーに認知されるようになりました。

【やまぐち地域共創プラットフォームの取組事項】



【うべ・未来共創プラットフォームの取組事項】



<知のシンクタンクとしての体制強化>

地域未来創生センターのWebサイト、チラシのリニューアルにより広報機能やコーディネート体制を充実させることで、企業や自治体等のニーズと学内シーズとのマッチングのためのワンストップ窓口としての機能の強化に努めています。



02 地域学の研究拠点としての山口学の発展

平成 27 年度に設置した山口学研究センターでは、地域社会・行政・大学が協働して、山口県の謎を解き明かす「山口学」研究プロジェクトに取り組み、地域の持つ魅力を再発見することや、地域が抱える課題の解決に貢献するなど、山口県における自然、文化、歴史、産業、観光、流通、教育等に関する研究を推進するとともに、その成果を活用し、地域社会の活性化に寄与してきました。

<山口学の裾野拡大>

この山口大学独自の地域学である「山口学」については、学内の多様な「知」を結びつけるため、令和 4 年度から従来の 3 年間支援するカテゴリに加えて、単年度のみ支援であるが、より柔軟な研究グループ設定が容易な支援カテゴリ「B」を追加することで、取組の裾野を拡大したところ、令和 5 年度には 8 件であった申請件数が令和 6 年度は 11 件、さらに令和 7 年度には 17 件と、過去最多の申請件数まで増加しています。

<山口学紀要の発刊>

令和 7 年に発行した「山口学紀要」第 5 巻では、令和 7 年 9 月にユネスコ世界ジオパーク承認勧告が決定した Mine 秋吉台ジオパークに関する研究である「格差なく楽しめるジオパークを目指して—ユニバーサルツーリズムの取組に対する実践報告—（西尾 建、脇田 浩二、岡本 純也）」を掲載し、高齢者や障害者が山口県内で旅行や観光を楽しむやすくなる試みを紹介する等、地域に根差した山口学研究の取組の普及にも努めています。

<山口学の発展>

複数年実施のプロジェクトへの申請を促すことで、科研費等外部資金による研究や本学の研究推進体へ発展する可能性のあるプロジェクトを支援することとしています。



▲ 山口学研究プロジェクト報告会

03 地域の安全・安心な生活を維持するための附属病院

山口大学医学部附属病院では、県内唯一の特定機能病院として、県内の持続的な地域医療体制の構築を目指し、「病院改革プラン 2040」を策定して様々な取組を進めています。また、令和 7 年 9 月には約 10 年に及ぶ病院再整備事業が完了し、より一層地域医療の拠点として地域の安全・安心な医療の提供につなげていきます。

<安全・安心な地域づくりへの貢献>

健康長寿社会、防災・環境、新興感染症の拡大等に関する教育・研究や DX の普及、山口県唯一の特定機能病院、地域の中核医療機関として「最後の砦」の役割を担い、行政機関と医療機関・教育機関との連携を推進し、安定した地域医療体制を充実させるとともに、地域住民が安全で安心して暮らせる地域の実現に貢献します。

<AI等のデジタル技術による医療の提供>

医学部の AI 研究と共同開発した最先端のデジタル技術を電子カルテに実装し、副作用対策や喘息の管理等に活用することで良質で安全な医療の標準化を推進しています。

<自治体との連携による地域医療体制の構築>

自治体と社会連携講座を設置し、総合診療、救急医療、小児医療などの地域における医療体制の課題解決を目指します。



▲ 外観



▲ 病院ロビー

ダイバーシティキャンパスへの歩み ～活力の源泉としての多様性～

■ これまでの取組状況

大学を構成する学生・教職員の多様性を積極的に高めるために、障害学生や留学生の支援とともに、女性・若手・外国人研究者を積極的に登用しています。令和7年度には、女性教員比率の前年増加率が全国の総合国立大学で3位、中四国で1位となりました。また、多様な個性や価値観を尊重するため、多様な性的指向と性自認への理解を高めるためのSOGIガイドラインの継続的見直しや、障害に応じた授業での個別配慮、宗教上の配慮を施した宿泊施設の提供、ならびに学内文書の多言語化や留学生相談のワンストップサービス等に取り組んでいます。学生協働にも力を入れ、学生目線を活かしたダイバーシティ推進イベントの開催や、図書館利用の促進、また留学生と日本人学生のペアによるインターンシップやPBLへの参加等の実績を挙げています。国際連携では、重点連携大学事業の推進、共創教育プログラムの開発と実施、ICTを活用した留学フェア等を継続的に実施しています。また「大学の世界展開力強化事業」等により、アフリカの大学との交流、留学生の受入が拡充しました。こうした幅広い取組により、多様な学生・教職員が活躍できるダイバーシティキャンパスへと確実に歩みを進めています。



ダイバーシティビジョン
担当副学長
竹松 葉子

01 多様性あふれるキャンパス

重点戦略では「ダイバーシティキャンパス」の基盤となる人材の多様性を確保するため、教職員、特に研究者(教員)の女性・若手・外国人比率を向上させることを掲げています。また教職員だけでなく、多様な学生を積極的に受け入れる等、大学の構成員全体の多様性を高めることで、「多様な知が共奏するダイバーシティキャンパス」づくりを推進しています。

<ダイバーシティキャンパス実現のための推進・支援組織等>

専門的な支援を行うために設置されたそれぞれの組織が中心となって、構成員の多様性の尊重や個性に応じた支援に取り組んでいます。

- ・ダイバーシティ推進室(教職員・学生に関するダイバーシティ推進全般)
- ・留学生センター(外国人留学生の受入推進・支援等)
- ・学生特別支援室(障害学生支援等)

数値から見た山口大学の「多様性」の現状

*令和6年度実績

■教職員関係 比率

①全教職員	女性比率	59.3%
②全教職員	障害者雇用比率	2.9%
③教員	女性比率	21.9%
④教員	若手(※)比率	18.5%
⑤教員	外国人教員比率	4.8%

※若手：40歳未満の者 ④のみ令和5年度実績値

■学生関係 比率

⑥学生	女性比率	38.2%
⑦留学生比率(正規生)		2.7%
⑧社会人学生比率(大学院)		22.9%
⑨障害学生比率		1.7%

02 世界につながるキャンパス

<ナイロビ大学(ケニア)との大学間国際交流協定締結で広がる学びの場>

令和2年度に文部科学省「大学の世界展開力強化事業(アフリカ)」に採択されて以降、ナイロビ大学との学生交流やアフリカ諸国からの修士・博士課程の留学生受入を積極的に進めてきました。令和5年12月にナイロビ大学と大学間国際交流協定を締結し、これまでに共同獣医学部、医学部、国際総合科学部において学生の派遣・受入を実現しています。令和7年1月にはナイロビ大学のハッチンソン学長が本学を訪れ、学生との懇談会やトークショーが開催されました。現在、アジア、欧州、北中南米、中東、アフリカ諸国からの在籍留学生は非正規生を含めると400名を超え、異文化交流も一層活発化しています。今後も世界各地とのネットワークを広げ、多様な文化や価値観が共生するキャンパスづくりを推進していきます。



▲ ケニアでのフィールドワーク



▲ 日本人学生と留学生でよさこいダンス体験



▲ 茶道体験



▲ 本学医学部にて研修



▲ ナイロビ大学学長と学生の懇談会



▲ ナイロビ大学での実習

03 学生とともに創るキャンパス

多くの学生たちがダイバーシティの推進や広報活動、図書館活動等の分野に参画し、学生の視点を活かした様々な取組を行っており、大学と地域をつなぐ役割も担っています。

<ダイバーシティ推進>

「ilma」「lanka」「kieli」という名称の3学生団体が SOGI や男女共同参画、ダイバーシティ意識の醸成等の活動テーマを持ち、意識啓発イベントや地域との連携等を通して学生目線によるダイバーシティの推進活動を行っています。



▲ 山口レインボープライド

<広報活動>

県内の小・中学校、高等学校に配布している情報誌「Academi-Q」の誌面制作や X (旧 Twitter) 発信に広報学生スタッフが参画しています。また、オープンキャンパスや大学見学等でも、学生の視点を活かした企画を実施しています。



▲ オープンキャンパス動画制作

<図書館活動>

LA (Library Assistant) が主体となって企画展示や広報・就活コーナーの運営、留学生交流支援活動等を実施しています。また、配架整理、カウンター業務、資料の修繕等の図書館補助業務も行っています。



▲ 留学生との交流会

教職員や学生が 地域と共に元気に楽しく活躍できる



経営ビジョン
担当副学長
山田 陽一

■ これまでの取組状況

ガバナンスコードの適合状況の公開や、学内外の活動のホームページやSNSによる積極的な発信により、透明性の高い情報公開を確保しています。情報セキュリティポリシー群の改定や、ひと・まち未来共創学環や人間社会科学研究科の設置等、地域・社会に必要なとされる新たな人材の育成に取り組み、株式等の運用やファンドレイザーの新規雇用による山口大学基金の更なる寄附獲得に向けた体制強化等、学長によるマネジメント体制は機能しています。全学DXの推進のため、情報基盤センターをICT基盤センターに改編し、業務効率化に向けてGoogle Workspaceを導入するとともに、データ連携システム構築に必要な仮名化や情報格付け基準等の諸規則を整備しました。また、ワークライフバランスを重視した職場の実現のため、業務の見直しや平準化等に取り組み、優秀な教員の早期教授昇任やテニユアトラック制度による若手教員の採用を行っています。これらの取組により、学生・教職員が誇りと喜びを持って学修や職務に取り組める環境の整備を図っています。

01 地域・社会のニーズに合わせた柔軟な連携と組織改革

<ひと・まち未来共創学環の設置>

デジタルの特性を理解した上で、地域の課題を適切に捉えて解決に導ける「文系DX人材」を育成する新たな教育課程を設置しました。

「文系DX人材」とは

人間の心理・行動に対する深い理解力と地域・コミュニティに対する分析力を基礎として、心の豊かさやまちの豊かさの観点から、ひとや地域の課題を見出し、その課題を解決するためにデジタル技術やAI技術等を活かすプロセスを提示でき、ひと・まちを起点とした新たな価値創造につなげることができる人材

<人間社会科学研究科への改編>

アカデミア養成の機能を保持しつつ、人文・社会科学の知識や経験から現代の課題に対応できる多様な人材を育成するため、学内の人文・社会学系の修士課程の教育体制を改編し、個々の大学院生が求める学びにきめ細かく対応できる新たな研究科を設置しました。

人間社会科学研究科の概要

人間科学、すなわち人文・社会・自然科学の主体たる「人間」を対象とし、これまでの人間の営為を研究する人文科学諸分野と、現在の人間社会をめぐる諸問題を研究する社会学、教育学、心理学、経済学、経営学等の社会科学分野、さらにデザイン学、データサイエンス等を相互に交流させることで、「人間」の生と社会の諸側面を探究します。



ひと・まち未来共創学環

02 DX推進に必要なICT基盤の整備・拡充

<ICT基盤センターへの改編>

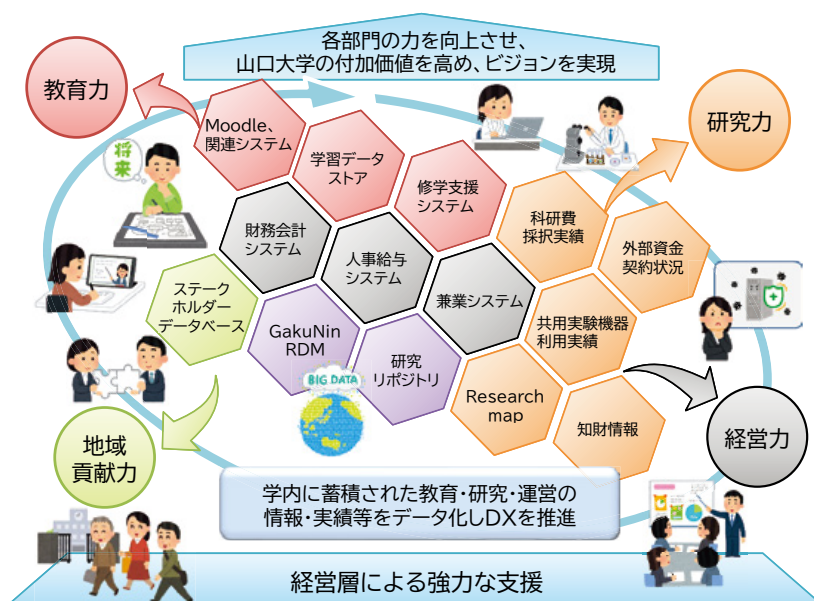
ICT基盤システムとして、クラウドのGoogle Workspaceを導入しました。この運用も含むDX推進のため、情報基盤センターなどの情報関連部署を再編・整理し、ICT基盤センターを設置しました。

<DXに必要な諸規則等の整備>

全学レベルのIRを可能とし、業務の生産性を高め、ステークホルダーへの新たな価値創出を図るため、データ連携システムの構築を進めています。まずは必要となる諸規則等の整備(法人文書管理マニュアル、仮名化マニュアル、情報格付け基準)を行いました。

<Google Workspaceの導入と運用>

クラウドシステム導入については、広く学内構成員の意見を聞くなどして合意形成を図り、スムーズに導入することができました。チャットやフォーム等を活用して、業務の効率化を図っています。クラウドに対応した情報セキュリティポリシー群の改訂も行いました。



▲「明日の山口大学ビジョン2030」実現のためのDX支援体制の構築

03 ワークライフバランスを重視した働きやすい職場の実現

<ワークライフバランスの推進>

定時退勤の推奨、業務分担の平準化、業務改善による時間外勤務の縮減を実施して、プライベート時間の更なる確保を図っています。令和6年度からはワークライフバランス強化期間の対象期間を拡充し、更なるワークライフバランスの推進に取り組んでいます。

<テレワーク勤務の制度拡充>

1日単位に加え半日単位でのテレワーク勤務を可能とし、再雇用職員も対象としました。勤務時間監督者からの命令により非常勤職員についてもこれらが可能となりました。その他、メール申請を可能とする等、手続きの弾力化も図りました。

<年次休暇の取得推進>

毎年度学長から、休日、年末年始休業とマイ・ホリデー、年次休暇を組み合わせた連続休暇の取得の促進を通知し、さらに連続休暇取得が想定される期間においては会議等の行事の自粛を要請しています。

<クールビズ・ウォームビズの実施>

クールビズに加えて、令和6年度からウォームビズも取り入れ、年間を通じての柔軟な服装により、働きやすさの確保とともに業務効率の向上を図っています。



工学部再編・情報学部新設

未来社会(Society 5.0)を切り拓く、 革新的な学びが始動します。

現代社会は、サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した「Society 5.0」へと移行しつつあります。

この変化に対応し、より複雑化する社会課題を解決するため、山口大学はこれまでの工学部7学科体制を抜本的に見直します。

情報技術の深化を目指す「情報学部」の新設と、

専門性と分野横断的な学びを両立する「工学部」の再編を実施し、

より柔軟で実践的な教育環境のもと、未来の社会に応える人材を育成します。

文理の壁を越え、Society 5.0時代を牽引する 「人に強い」先端IT人材へ —— 2026年4月、情報学部が誕生

2026年4月、これまでの工学部「知能情報工学科」を発展・独立させ、入学定員を120名に拡大した「情報学部（1学科4コース）」を新設します。

最大の長は、従来の開発技術者養成を中心とした枠組みを超え、高い専門性の「深さ」と、多様な分野と融合できる情報学の「広さ」を両立した点にあります。

これにより、Society 5.0時代に求められる倫理観・社会性・複眼的視野を備え、人に寄り添った価値創造ができる先端IT人材を育成します。

情報学部の特徴

01 「深さ」と「広さ」を両立

情報専門技術の深い知識と、複数分野にまたがる横断的な学びを組み合わせた教育体制

02 4つの専門領域を基盤に、 コースごとの専門性を 深める学び

コース毎にカリキュラムを示し、各分野のスペシャリストになるための教育体制を構築

03 人間中心の 価値想像力を育成

技術だけでなく倫理観・社会性・複眼的視点を備えた“人に強いIT人材”を目指す。

04 多様な進路に対応

AI、xR、空間情報、システム開発、データ分析、UI/UX設計など、先端技術を活かす多様な業界へ幅広い進路に対応できる力を養成

カリキュラムは、1、2年次で情報学の基盤を体系的に幅広く学んだ後、2年次後期から4つの専門コースに分かれます。

安心・安全なITインフラを支える「情報システムコース」、膨大なデータから未来を予測する「人工知能コース」、衛星データ等の空間情報を活用して地域課題の可視化に挑む、本学独自の「ジオ・インテリジェンスコース」、人に心地よいデジタル体験を設計する「人間情報学コース」の4分野で、深い専門知識を身に付けます。

さらに、多様な人材を受け入れるため、文系・理系問わず受験可能な独自の入試制度を導入します。入学時の試験区分(文系型・理系型)によるコース選択の制限はなく、数学Ⅲ未履修者への補講サポート体制も整っているため、文系出身者でも安心してITのスペシャリストを目指すことができる環境です。

情報システムコース

ネットサービスや業務システムを設計・運用するための基礎から実践までを学びます。

防災アプリや学校管理システムなど、暮らしを支える安心・安全なITインフラを作る力を身につけます。



人工知能コース

データ分析やAIの仕組みを学び、画像認識や予測などの技術を実装できる力を養います。

病気の診断支援や渋滞予測など、人の判断を助けるAI技術で、企業や行政の意思決定にも貢献します。



ジオ・インテリジェンスコース

地図や衛星データを使って、災害リスクや人の動きなどを分析・可視化する技術を学びます。

地域防災や都市計画、環境対策など、空間情報を活用して社会課題の見える化に貢献します。



人間情報学コース

VRやUI/UXなど、人の感じ方や使いやすさに配慮したデジタル体験の設計を学びます。

医療・教育アプリやリハビリ支援など、誰にとってもやさしいITサービスの実現を目指します。



専門性と俯瞰的視野を併せ持つエンジニアへ —— 工学部が「2学科12コース」に

Society 5.0やSDGsなど、現代の複雑な社会課題を解決するには、単一の専門知識だけでなく、複数分野を横断する「俯瞰的視野」が不可欠です。

そこで山口大学工学部は、これまでの縦割りのな7学科体制から情報系分野を独立させ、2026年4月より「創成工学科」と「建築学科」の2学科12コース体制へと抜本的な再編を行います。

令和7年度

学 科	
機械工学科	[定員90名]
社会建設工学科	[定員80名]
循環環境工学科	[定員55名]
応用化学科	[定員90名]
電気電子工学科	[定員80名]
感性デザイン工学科	[定員55名]



令和8年度

学 科	系	コース
創成工学科 [定員355名]	機械系 [目安定員90名]	航空宇宙エネルギーコース
		知能機械デザインコース
		メディカルデバイスコース
	国土・環境デザイン系 [目安定員80名]	社会基盤コース
		環境・防災コース
	化学系 [目安定員105名]	エネルギー創成コース
		創薬・バイオコース
		環境・プロセスデザインコース
	電気電子系 [目安定員80名]	電子デバイス工学コース
		電子システム工学コース
	建築学科 [定員55名]	建築サイエンスコース
		建築都市デザインコース

工学部(再編後)の特徴

01 2学科12コース体制

- ・創成工学科は1学科4系体制による分野横断的な学びを促進。建築学科は建築分野をより広く深く学修できる
- ・各学科にコースを設け、専門分野をより体系化したカリキュラムとすることで、個別最適化された学習を可能に



02 実践力を養うカリキュラム

- ・課題解決型学習や異分野協働演習を通じて、現実社会の課題を解決する力を養成
- ・「自ら課題を見つけ、考え、手を動かして解決する」プロセスを重視した教育スタイル

03 地域・社会と連携した研究・教育

- ・地域社会や企業との共同研究、フィールドワーク、インターンシップなど実社会とつながる学びを積極的に展開
- ・山口県をはじめとした地域課題への貢献にも注力

04 持続可能な未来を支えるテーマに対応

- ・環境・エネルギー・防災・インフラ・ものづくり・建築など、持続可能な社会を支える工学課題を包括的にカバー
- ・グリーン社会・カーボンニュートラル・スマートシティなどにも対応した人材教育をめざす

05 キャリアにつながる専門力と資格支援

- ・国家資格(測量士補、建築士など)への対応科目を多数設置
- ・就職支援も充実しており、産業界が求める“即戦力”として活躍できる基礎と応用力を育成

■ 分野横断と専門深化を両立する「創成工学科」

機械系、国土・環境デザイン系、化学系、電気電子系の4系で構成します。1年次に各系に所属して基礎を学びますが、2年次進級時に1年次の成績に基づく「転系」が可能な柔軟な制度を設けています。

3年次からはさらに細分化された10のコースへ配属され専門性を深めます。また、「異分野展開科目」を通じて他分野の知識も幅広く学ぶことで、複雑な社会課題に俯瞰的視野を持って取り組む能力を養います。

機械系

航空宇宙エネルギーコース

航空・宇宙機の運動に関する力学と制御、内燃機関や航空原動機などのエネルギー機械に係る専門科目を通し、専門知識を習得します。

知能機械デザインコース

自動車・鉄道・ロボットの設計と製造、メカトロ製品の計測制御などに係る専門科目を通し、専門知識を習得します。

メディカルデバイスコース

生体材料力学、計測工学、ロボット機構学に係る専門科目を通し、専門知識を習得します。

化学系

エネルギー創成コース

原子や分子の基本的な性質、物質の状態変化や化学反応に関わる基礎を学び、これらを基に物質・エネルギー変換の専門知識を習得します。

創薬・バイオコース

生体分子、有機合成、無機材料、分析計測技術などの分野の専門科目を通し、専門知識を習得します。

環境・プロセスデザインコース

物質、エネルギー、環境、化学プロセスなどに係る専門科目を通し、専門知識を習得します。

国土・環境デザイン系

社会基盤コース

社会基盤(インフラ)の計画・設計・施工・維持管理などに係る専門科目を通し、専門知識を習得します。

環境・防災コース

防災・減災および環境保全に関連する専門科目を通し、専門知識を習得します。

電気電子系

電子デバイス工学コース

材料物性、先進デバイス、エネルギー制御などに係る専門科目を通し、専門知識を習得します。

電子システム工学コース

情報通信技術、計測制御技術、電気エネルギーなどに係る専門科目を通し、専門知識を習得します。



■ 文理融合で建築を究める「建築学科」

「建築サイエンス」と「建築都市デザイン」の2コースを設け、人文・社会科学や芸術と理工系を統合した文理融合型の教育を実施します。一級・二級建築士の受験資格取得に対応したカリキュラムが用意されており、学生の興味や進路に合わせて柔軟に履修モデルを選択できます。さらに、理系だけでなく文系型の入試制度を新たに導入し、多様な素養を持つ人材を受け入れます。

建築サイエンスコース

材料の特性を考慮した持続可能な建築の構造や環境などに係る専門科目を通し、専門知識と技術を習得。将来は建築構造と建築設備の設計・施工、建築材料開発などの分野での活躍が期待されます。

建築都市デザインコース

歴史や文化をいかした建築や都市の計画・デザイン・まちづくりなどに係る専門科目を通し、専門知識と技術を習得。将来は建築設計や都市のデザインマネジメント、空間まちづくりなどの分野での活躍が期待されます。

山口大学 Topics & News

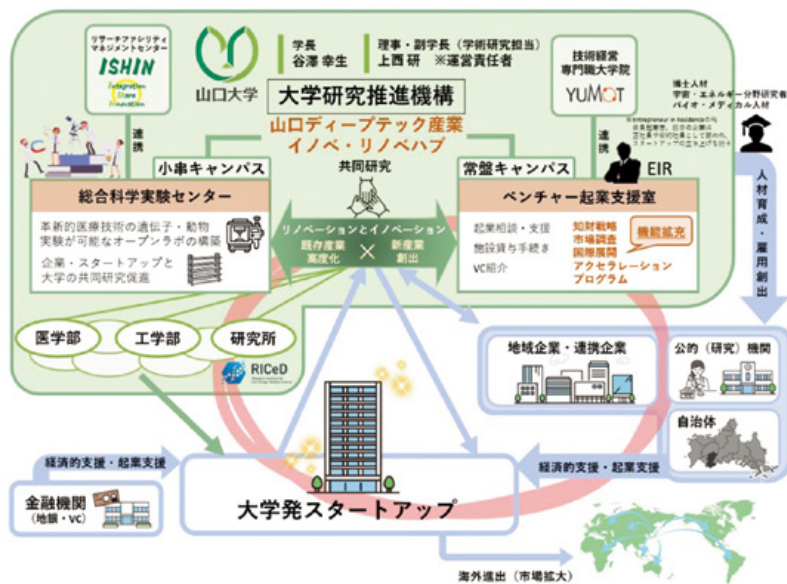
01▶ 山口ディープテック産業イノベ・リノベハブを新設し、地域経済活性化へ

令和7年4月23日、経済産業省 令和6年度補正予算 中小企業産業技術・環境・産業標準政策推進事業費補助金「地域大学のインキュベーション・産学融合拠点の整備（Jイノベ拠点プラットフォーム型）」に採択されました。

本事業では、山口県の地域課題である「就業者数及び県内総生産の伸び率の低下」を克服し、地域経済の活性化を目的に、新たな拠点として「山口ディープテック産業イノベ・リノベハブ」の整備を行います。新産業創出（イノベーション）と既存産業の高度化（リノベーション）との両面を強化するため、以下の整備に重点を置き取り組みます。

- 大学発スタートアップの創出・成長を支援する機能整備
- スタートアップ・新規事業創出のためのインキュベーション施設の増設
- 革新的医療技術の遺伝子・動物実験が可能なオープンラボの構築

また、事業の中心となる常盤キャンパス・小串キャンパスが所在する宇部市と連携し、地域の新たな産業価値を創出し、地域経済の活性化と雇用創出を実現する持続可能な産学連携モデルの確立を目指します。



02▶ 陸上競技部の國森郁光さんが世界陸上代表選手選考競技会に出場!!

令和7年7月4日(金)から6日(日)にかけて国立競技場で開催された「第109回日本陸上競技選手権大会」に、本学陸上競技部の國森郁光さん(教育学部3年)が出場しました。この大会は、同年9月の「東京2025世界陸上」日本代表選考も兼ねた日本最高峰の舞台です。國森さんは5月の中国四国インカレで800m・1500mの2冠を達成するなど、高い実力を発揮しています。

大会を前にした6月30日(月)には学内で激励会が開かれました。谷澤幸生学長らが出席する中、國森さんは「出場するからには表彰台を狙い、1秒でも速く走れるよう精一杯頑張りたい」と力強く抱負を語りました。これを受け、谷澤学長から「活躍を期待している。ぜひ決勝に残ってさらに上位を目指してほしい」と熱いエールが送られました。大会では惜しくも決勝に進むことはできませんでしたが、國森さんは日本最高峰の舞台で堂々とした走りを見せてくれました。



03▶ 経営改善に大きく貢献した職員に対し 学長表彰式を行いました

令和7年7月17日(木)、吉田キャンパス学長室にて「学長表彰式」を執り行いました。本法人の発展に功績があった場合や学術上有益な研究業績があった場合等、顕著な功績があった教職員を表彰するものです。

今回表彰されたのは、電気料金の見直しに取り組んだ11名の職員です。吉田・小串・常盤の3キャンパス合同でワーキング・グループを立ち上げ、検討を重ねた結果、大幅なコスト削減を実現。大学の経営改善に大きく貢献したことが高く評価されました。式では、谷澤幸生学長から一人ひとりに表彰状が授与され、その功績を

称えるとともに、今後の活躍を期待する激励の言葉が贈られました。表彰式後の懇談会ではコスト削減の方策について意見交換も行われました。入札参加者を増やすための工夫や、新たなアイデアが提案されるなど、会は和やかな雰囲気の中で終了しました。



04▶ 山口大学体育会自動車部へ車を寄贈いただきました

令和7年8月9日(土)、株式会社トヨタレンタリース山口様より、山口大学体育会自動車部へ車両をご寄贈いただきました。

寄贈にあたり同社の藤本浩社長からは、「自動車部の部員が代々アルバイトとして活躍してくれている。今回はそのお礼の気持ちを込めて車を贈る。今、アルバイトしてくれている学生は、この車に乗って大会で優勝すると言っていた。ぜひ頑張ってほしい」と激励の言葉をいただきました。これを受け、部長の高山晃寿さん(工学部3年)は、「これまでの繋がりをきっかけに、今回、車を寄贈いただきとてもありがたく思う。これから競技規定が変わるが、今回いただいた車であれば、新しい規定でのレースに出場可能になる。これからも練習に励んで、全日本選手権で優勝したい」と感謝と決意を述べました。

式典後には、参加者同士の談笑が広がるなか、藤本社長のご厚意で、社長が乗ってこられた電気自動車の見学会とともに、藤本社長の運転による即席の試乗体験会も行われました。会場は世代を超えた「クルマ好き」たちの熱気と笑顔に包まれ、車談議に花が咲きました。

この度、多大なるご支援を賜りましたトヨタレンタリース山口様に、心より感謝申し上げます。



05 ▶ 「第6回宇部 SDGs パブリック・ディベート大会」において 医学部医学科のチームが優勝!

令和7年11月8日(土)に男女共同参画センター・フォー・ユー(宇部市)において開催された「第6回宇部SDGsパブリック・ディベート大会」に本学の学生が参加し、医学部医学科のチームが優勝、教育学部学校教育教員養成課程小学校総合選修のチームが準優勝しました。

この大会は、宇部市を中心とした中学校、高等学校、大学の学生が参加し、年に一度開催される大会です。パブリック・ディベートの特徴は、

一般市民にも理解できるように、常識的なエビデンスに基づいたスピーチを行うことにあります。内容が理解しやすいことで、多くの市民が議論に参加できる機会を促進することに繋がります。このようなパブリック・ディベートを実践する大会を通して、社会において議論する文化を育むことを目的としています。第6回となる今大会では、「生物多様性と人間の共存に向けて」をテーマにディベートが行われました。

優勝した医学部医学科チームの学生からは、「生物多様性という難しいテーマに対して、医学的な観点からアプローチできないかとチームで力を合わせて考えた。試合では、相手チームと議論を進める中で、お互いの政策を建設的に深めあうことができ、とても有意義な時間になった」と感想が寄せられました。



06 ▶ 世界で最も影響力のある科学者トップ2%リストに 本学の教員がランクイン!

アメリカのスタンフォード大学とオランダのエルゼビア社が作成・公表した「科学分野で世界的に高い影響力を持つ研究者リスト (Top 2% Scientist リスト)」の最新版(2025年9月19日付けで更新・発表)において、「単年」区分に本学の教員13名※がランクインしました。

同リストは、エルゼビア社が提供する学術データベース「Scopus」の情報を基に、22の主要分野および174のサブ分野における研究者を対象として分析したもので、総被引用回数、h-index、単著論文数、個別引用論文数など、複数の指標を総合的に用いて行われています。

この国際的に権威あるリストに選出されたことは、本学の研究活動が世界水準で展開し、その成果が幅広い分野で影響力を持っていることを示しています。

※2025年11月1日現在、本学に在籍している教員をカウント



Financial data Governance

— 財務データ・ガバナンス —



■ 損益計算書

国立大学法人の損益計算書は、教育・研究活動等の運営状況を明確にするための「活動成績表」です。国からの運営費交付金や授業料などの収入と、教育・研究・診療等にかかった費用を記載しており、1年間の活動状況がわかります。

2024年度 損益計算書 ハイライト

昨今の人事院勧告等に伴う人件費の増加や、物価の高騰という厳しい外部環境に直面し、最終的な当期総損失は5.8億円となりました。法人全体で人件費高騰等に対応するために「目的積立金」を取り崩す等の対応を行い、前年度(△16.6億円)から損失幅が10.8億円縮小しました。

費用		収益	
教育研究活動等に要した費用	561 億円 15億円 ↑	教育研究活動等のための源泉	555 億円 26億円 ↑
		損失	
		経営課題への対応で生じた損失	5.8 億円 10億円 ↑

医学部附属病院の持続可能な経営への挑戦

山口大学医学部附属病院は、山口県内唯一の特定機能病院であり、本法人の事業規模の6割以上を占めています。令和6年度の附属病院収益は、入退院調整の最適化や休日診療の実施、差額室料の見直しといった経営改善により、前年度比17億円増と大きく伸長し、過去最高の300億円を突破しました。

一方で、物価高騰や医療の高度化に伴う材料費の増大に加え、医師の働き方改革や人事院勧告への対応による人件費増など、外的要因によるコスト増が増収分を上回り、結果として法人全体で5.8億円の当期総損失となりました。

この「増収減益」という厳しい局面を打破するため、本学は法人全体でさらなる収支改善に注力しています。高付加価値医療の推進や徹底したコスト管理を継続し、不断の経営改善を積み重ねることで、地域医療の最後の砦としての使命を全力で果たしてまいります。引き続き格段のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

損益計算書

費用

	単位：百万円		
	2023年度	2024年度	増減
経常費用合計	53,834	56,048	2,213
業務費	52,732	54,884	2,151
教育経費	2,356	2,371	15
研究経費	1,525	1,965	439
診療経費	21,795	21,913	117
教育研究支援経費	794	846	51
受託研究費等	1,524	1,950	426
人件費	24,736	25,836	1,100
一般管理費	920	928	7
その他	181	235	54
臨時損失	732	86	△645
費用合計	54,567	56,134	1,567

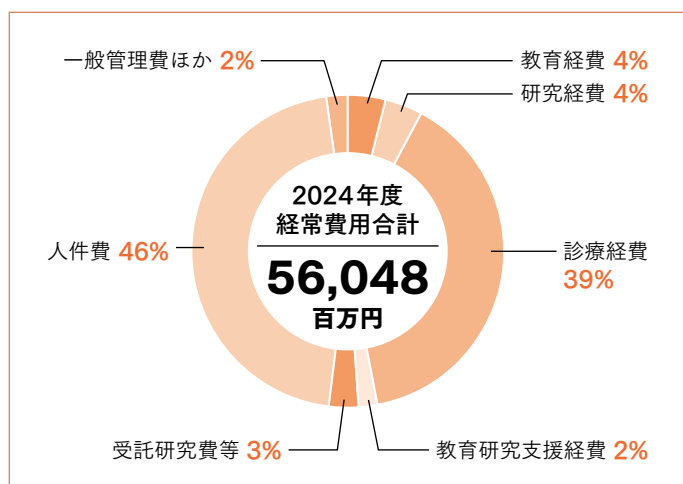
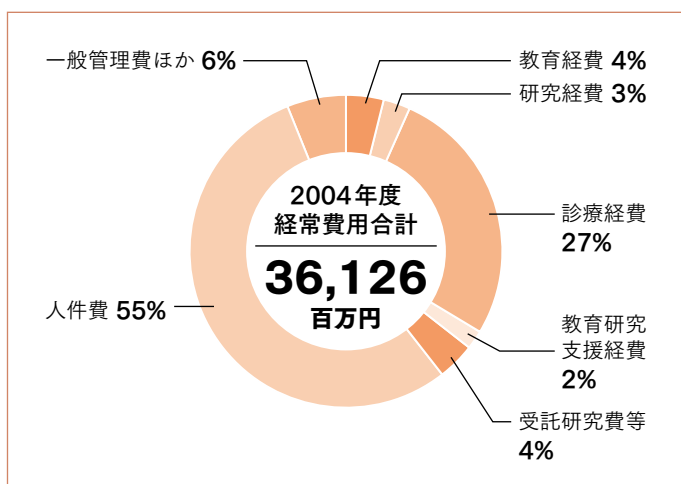
収益

	単位：百万円		
	2023年度	2024年度	増減
経常収益合計	52,809	54,871	2,061
運営費交付金収益	12,131	11,955	△176
学生納付金収益	6,064	6,106	42
附属病院収益	28,478	30,192	1,714
受託研究等収益	1,738	2,141	402
寄附金収益	908	1,043	134
施設費収益	257	321	63
補助金等収益	1,955	1,764	△191
その他	1,274	1,345	71
臨時利益	87	0	△87
目的積立金取崩額	1	675	674
収益合計	52,898	55,547	2,648

※単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。

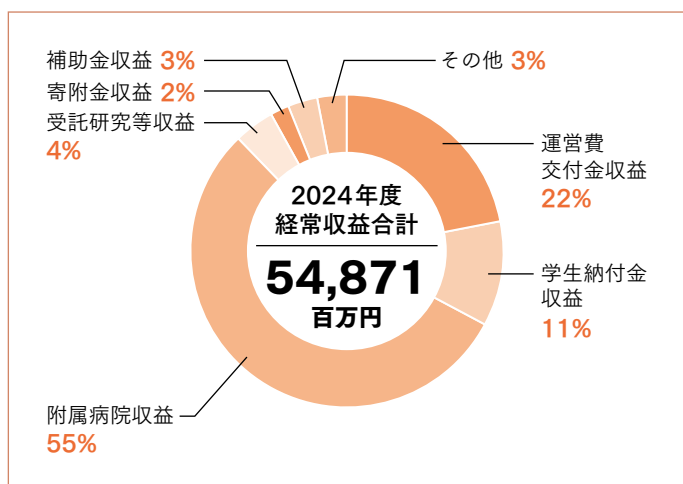
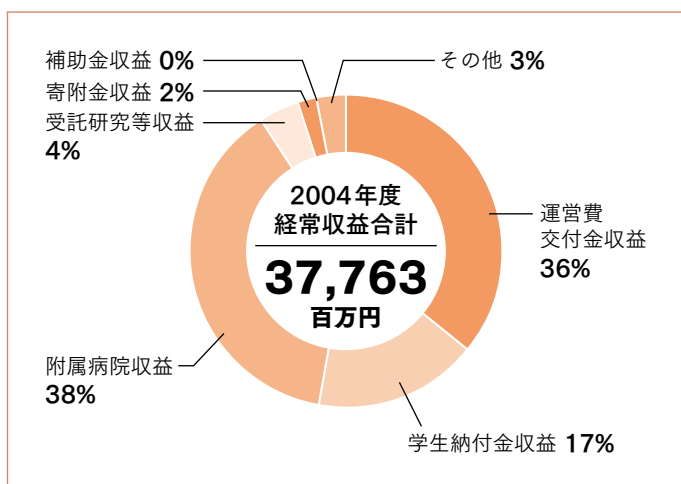
法人化後の経常費用の変化（2004→2024）

一般管理費の縮減を図り、効率的な大学運営に努めました。



法人化後の経常収益の変化（2004→2024）

附属病院の収益拡大に伴い、病院経営が法人の財務構造に大きな影響を及ぼします。



貸借対照表

国立大学法人の貸借対照表は、年度末における大学の財政状態を示す「財産目録」です。大学が持つ建物や設備、現金といった資産と、借入金などの負債、そしてそれらを除いた自己資金（純資産）を一覧で示し、大学の財政基盤が分かります。

2024年度 貸借対照表 ハイライト

病棟改修工事費の支払完了により、預金と未払金が大きく減少しました。固定資産の減価償却が進行した影響で、純資産も減少しています。また、教育・研究・診療の質を維持・向上させるため、前年度と同じ規模で資金を運用しています。

資産	
建物等	806億円 12億円 ↓
株式等	29億円 0.01億円 ↑
現預金等	166億円 17億円 ↓
資産合計	1,002億円 29億円 ↓

負債	
返済の必要のない債務	78億円 5.9億円 ↓
未払金等	390億円 16億円 ↓
負債合計	468億円 22億円 ↓

純資産	
純資産合計	534億円 6.9億円 ↓

貸借対照表

資産	単位：百万円		
	2023年度	2024年度	増減
資産の部	103,265	100,273	△2,991
固定資産	84,818	83,297	△1,521
土地	15,157	15,160	2
建物・構築物	44,742	43,893	△849
機械備品等	9,808	9,172	△636
図書	7,407	7,420	13
建設仮勘定	4,137	4,498	360
投資有価証券	2,992	2,694	△298
その他	572	459	△113
流動資産	18,446	16,976	△1,470
現金・預金	11,536	8,927	△2,608
有価証券	0	300	300
未収金	6,295	7,038	742
その他	614	709	95

負債	単位：百万円		
	2023年度	2024年度	増減
負債の部	49,136	46,841	△2,294
固定負債	30,993	30,188	△805
長期借入金	26,345	26,077	△267
その他	4,648	4,110	△537
流動負債	18,142	16,653	△1,489
寄附金債務	4,379	4,122	△256
借入金	1,467	1,471	3
未払金	9,430	8,597	△833
その他	2,864	2,461	△403

純資産	単位：百万円		
	2023年度	2024年度	増減
純資産の部	54,128	53,432	△696
資本金	16,222	16,222	0
資本剰余金	10,168	10,860	691
利益剰余金	27,737	26,349	△1,388
(うち当期未処理損失)	△1,668	△587	1,081

※単位未満切り捨てのため、合計は必ずしも一致しません。

財務指標

本学の2024年度における経営状況を、同系統・同規模の24国立大学法人の平均を50とする偏差値で評価しました。その結果、教育経費率や人件費比率が高い一方で、研究経費比率や外部資金比率が低いという特徴が見られます。

財務指標（病院セグメント含む）

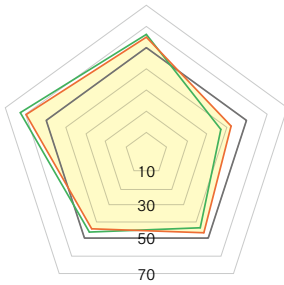
2024年度 山口大学 2023年度 山口大学 2024年度 24法人平均

教育経費比率

2024年度 4.23%
2023年度 4.38%
24法人平均 3.91%

一般管理費比率

2024年度 1.66%
2023年度 1.71%
24法人平均 2.34%



研究経費比率

2024年度 3.51%
2023年度 2.83%
24法人平均 4.31%

人件費比率

2024年度 46.10%
2023年度 45.95%
24法人平均 44.86%

外部資金比率

2024年度 3.90%
2023年度 3.29%
24法人平均 4.47%

財務指標（病院セグメント除く）

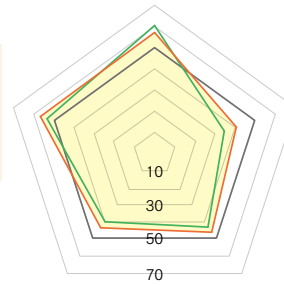
2024年度 山口大学 2023年度 山口大学 2024年度 24法人平均

教育経費比率

2024年度 11.35%
2023年度 11.96%
24法人平均 10.40%

一般管理費比率

2024年度 4.36%
2023年度 4.70%
24法人平均 5.07%



研究経費比率

2024年度 8.93%
2023年度 7.33%
24法人平均 10.97%

人件費比率

2024年度 62.96%
2023年度 64.98%
24法人平均 60.64%

外部資金比率

2024年度 8.73%
2023年度 7.32%
24法人平均 10.05%

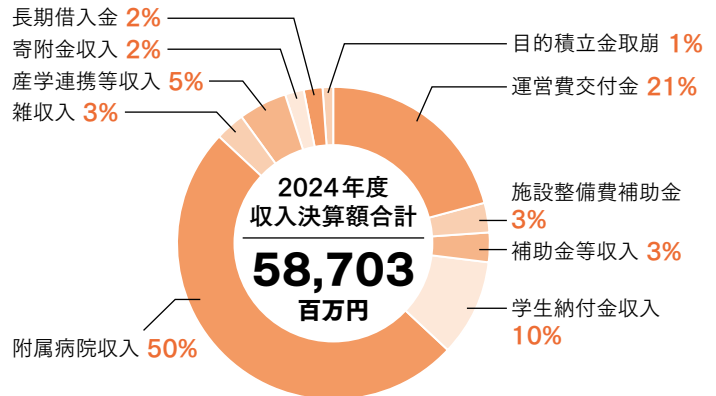
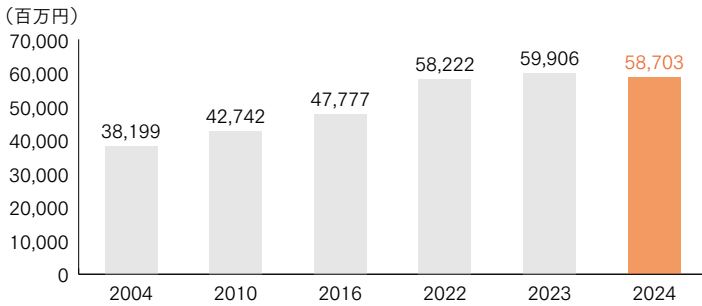
財務指標		指標の内容		評価
活動性・収益性	教育経費比率	教育経費 ／経常費用	経常費用のうち教育経費の占める割合はどうか。大学本来の活動のうち、教育活動に充当される直接費の割合はどうか。	一般的に高いほどよい
	研究経費比率	研究経費 ／経常費用	経常費用のうち研究経費の占める割合はどうか。大学本来の活動のうち、研究活動に充当される直接費の割合はどうか。	一般的に高いほどよい
発展性・成長性	外部資金比率	(受託研究収益＋共同研究収益＋受託事業収益) ／経常収益	経常収益のうち外部から獲得した資金(寄附金を除く)の占める割合はどうか。	一般的に高いほどよい
効率性	人件費比率	人件費 ／経常費用	経常費用のうち人件費の占める割合はどうか。人件費を抑え、学生向けの教育サービスの質的向上や必要な研究経費が十分確保されているか。	一般的に低いほどよい
	一般管理費比率	一般管理費 ／経常費用	経常費用と一般管理費との割合はどうか。管理経費を抑え、効率よく大学業務が運営されているか。	一般的に低いほどよい

収入決算額の推移

大学の収入（現金ベース）について、法人化当初（2004年度）から2024年度までの推移をグラフにしました。

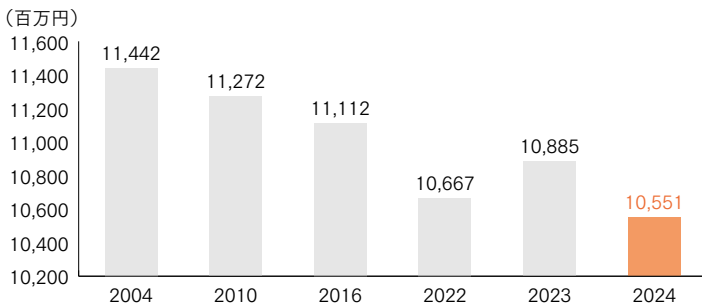
総収入

決算報告書の総収入



収入の内訳

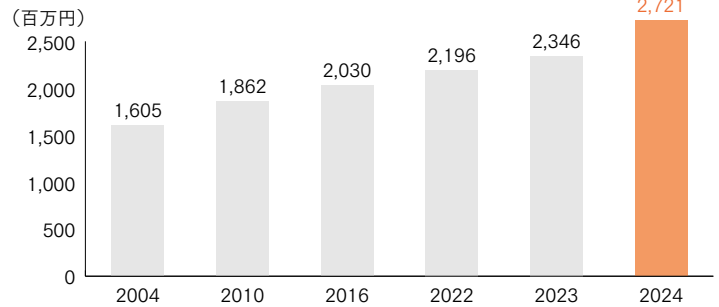
運営費交付金収入（特殊要因経費を除く）



POINT

運営費交付金収入は、国の削減方針により、法人化当初に比べて大きく減少しています。2023年度は設備費の獲得に尽力した結果、前年度比で増加しましたが、2024年度は再び減少しました。

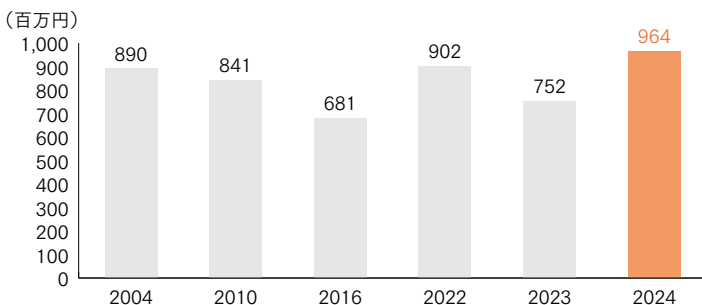
産学連携等収入（補助金に係る間接経費含む）



POINT

産学連携機能の強化は、収入の増加という形で成果を上げています。一方で、研究経費および外部資金が他大学と比べて少ないことが本法人の課題です。このため、今後も外部資金の獲得に注力し、研究の一層の推進と経営基盤の強化を目指します。

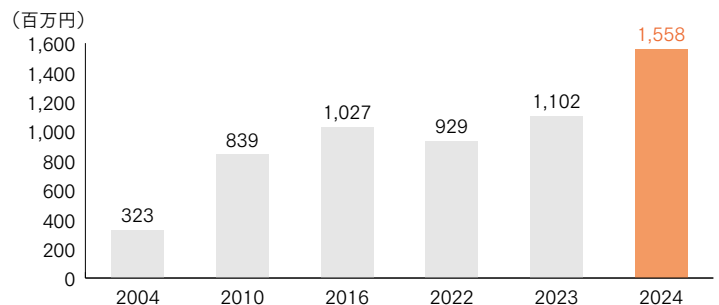
寄附金収入



POINT

2015年に創基200周年を記念して山口大学基金を創設するなど、近年、本法人は寄附金獲得に注力しています。皆様からの寄附金は、人材育成や研究活動に活用し、その成果を社会へ還元することで、地域・日本の発展に貢献できるよう、引き続き獲得に努めてまいります。

その他の収入



POINT

本法人は、動物医療センターの運営、土地・建物の貸付、特許権の活用などにより収入を得ています。教育・研究活動の一層の充実を図るため、財源の多角化と収入増加に、今後も積極的に取り組んでまいります。

■ その他財務トピックス

TOPIC 1 学生1人当たりの教育活動に要する経費

学生の年間授業料は約53万円ですが、教員人件費、図書館費、教育に必要な物件費などを合わせると、学生1人当たりの教育活動経費は約90万円となります。授業料で賄いきれない差額分は、主に運営費交付金や寄附金、補助金などで補填しています。

コスト内訳

	単位：百万円
	2024年度
教育経費	2,057
教育研究支援経費	468
人件費	6,490
合計	9,016

教育経費の主な用途

- ▶ 授業料免除、給付型奨学金
- ▶ 教育用施設・設備の維持管理費
- ▶ 授業用の教材・試薬等
- ▶ 講義室等の光熱水費

2024年度
学生1人当たりの
教育コスト

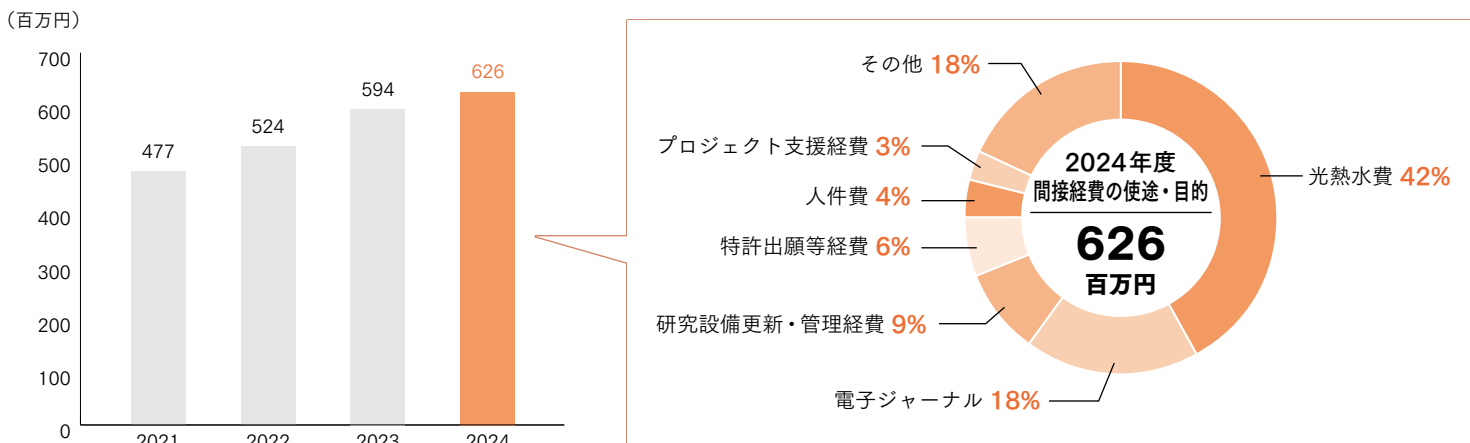
約**90.2万円/年**

[参考] 年間授業料
53.6万円

TOPIC 2 間接経費とは？

間接経費とは、研究に必要な費用(直接経費)とは別に、研究室の電気代や設備の維持費、事務員の人件費など、研究活動を支える大学全体の運営費用のことで、国や共同研究企業に一定比率をご負担いただいています。これにより、より良い研究環境の整備や大学機能の向上が図られています。

間接経費受入額の推移

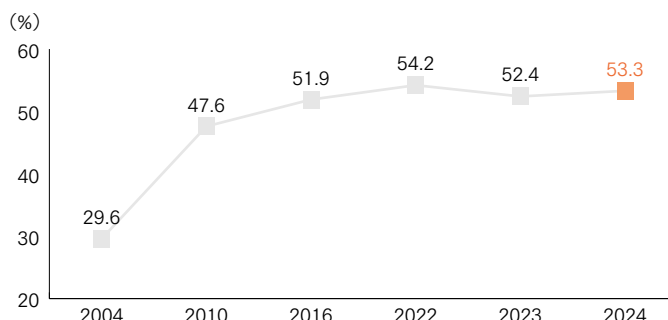


TOPIC 3 自律的経営の進展と安定した財務基盤

2004年の法人化以降、自己資本比率は29.6%から53.3%へと上昇し、財務の健全性は着実に向上しました。この20年間の伸びは、自己収入の拡大と経営効率化による「自律的な経営基盤」の強化を物語っています。

2023年度は物価高騰の影響で一時低下しましたが、2024年度には再び上昇しました。この強固な基盤を背景に、次世代への投資を力強く推進してまいります。

自己資本比率の推移



未来を拓く教育環境の実現に向けて

— 令和8年4月からの授業料改定について —

山口大学は、昨今の物価高騰や光熱費の上昇など厳しい社会情勢の中、学生の皆様により質の高い教育環境を提供し続けるため、およそ20年ぶりとなる授業料の改定を決定しました。

授業料改定の概要

■ 授業料改定の内容

令和8年4月以降の学士課程（学部・学環）入学者（留学生を含む）及び令和9年4月以降の大学院博士前期課程（修士課程、専門職学位課程含む）の入学者より、右表のとおり授業料を改定します。なお、令和7年度現在の在学学生には適用しません。また、入学料、検定料の改定は行いません。

	現行	改定後	改定の時期
学士課程 （学部・学環）	535,800円	642,960円	令和8年4月 入学者より
大学院博士前期課程 （修士課程、専門職学位課程含む）	535,800円	642,960円	令和9年4月 入学者より
大学院博士後期課程 （医学系研究科医学博士課程、 共同獣医学研究科博士課程含む）	535,800円	現行どおり	—

※編入学者は、通常の入学者の学年進行に合わせて適用します。

■ 経済的支援の取組

授業料改定後も、志のある学生が経済的状況により本学で学ぶ機会を逸することがないように、現行の授業料減免と同様に改定後の授業料も、その減免割合に応じて減免を行います。また、山口大学独自の経済的支援の充実にも引き続き努めます。

改定分の使途について

■ 学生の声に応える環境整備

授業料改定分は、在学期間中のより高いレベルの教育研究環境の提供に反映することをお約束します。これまでに行った学生アンケートやご意見箱に寄せられた要望を吟味し、優先順位を付けて計画的に整備するとともに、今後も学生の声に耳を傾け、要望を尊重します。



■ 使途の公開

整備の進捗状況や使用した金額については、ホームページ等を通じて適時適切に公開し、透明性を確保します。「山口大学レポート」の誌面でも、今後、整備状況等について報告する予定です。

■ 山口大学の内部統制体制について

山口大学では、業務方法書に規定した「内部統制に関する基本事項」に基づき、「内部統制システム」を運用しています。

実施体制

モニタリングの実施

山口大学では、各部署における自己点検（1次モニタリング）、統括担当部署における各部署へのチェックリスト等での点検・ヒアリング（2次モニタリング）及び内部監査室が実施する内部監査（3次モニタリング）の3つのモニタリングを実施しています。

モニタリング結果等の情報共有

業務方法書に記載するリスク管理等の内部統制に関する事項について、協議及び情報を共有するために、学長、理事、特命理事及び各キャンパスの事務部長（総務企画部長・医学部事務部長・工学部事務部長）で構成する内部統制会議を毎月開催しています。

モニタリングの結果は内部統制会議に報告され、問題点があれば、要因の分析や改善策について協議を行い、その結果（検討状況・改善指示等）について部局長会議等を通じ学内全体で情報共有する体制を構築しています。

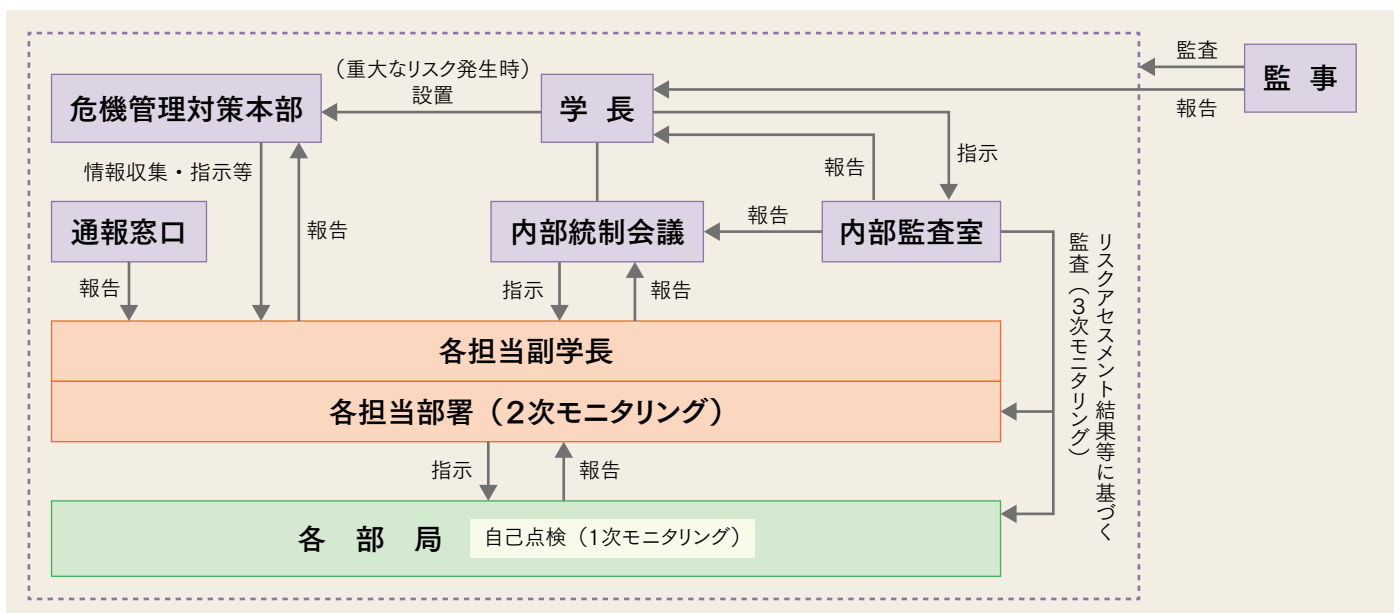
「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況の確認

「国立大学法人ガバナンス・コード」は、国立大学が特性を踏まえた取り組みを実施し、教育・研究・社会貢献機能を最大限発揮するとともに、経営の透明性を高め、自ら強靱なガバナンス体制を構築していくための基本原則で、令和元年度に一般社団法人国立大学協会が文部科学省、内閣府の協力を得て策定したものです。

山口大学では、中期計画において、学長のリーダーシップのもとで、「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況を自主的、継続的に確認・点検することで強靱なガバナンス体制を構築することとしており、内部統制会議において適合状況を確認し、自己点検・改善を行っています。

なお、本学の「国立大学法人ガバナンス・コード」への適合状況については、ホームページで公表しています。

URL https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/legal_public_information/governance_code/



▲ 内部統制推進体制図

明日の日本を担う学生や若手研究者を支援し、社会の発展に貢献

「山口大学基金」は、創基200周年記念事業募金を基に、未来を担う学生のチャレンジ精神を後押しするとともに、学生らが安心して修学できるよう、経済的な支援を行うための基金として、2015(平成27)年に創設されました。

山口大学は、基金を更に充実し、継続した学生・研究者への支援を行うことで、グローバルマインドを身につけ、地域そして世界で活躍する「未来の長州ファイブ」を育成するとともに、地域社会の「教育・学術・文化の発展」に広く貢献して参ります。

支援実績（令和6年度）

支援人数・件数：233人・34件／支援額：約5,419.6万円

七村奨学金（山口大学独自の返還を要しない給付型奨学金） 31人 1,932万円

● 1人当たり63万円（7万円×12月、4年又は6年間）

学部学生31人（人文学部1、経済学部3、理学部5、医学部医学科10、医学部保健学科1、工学部5、農学部1、共同獣医学部2、国際総合科学部3）

私費外国人留学生への奨学金（給付型） 12人 648万円

● 1人当たり54万円（4.5万円×12月、1年間）

大学院生12人（人文科学研究科1、経済学研究科3、創成科学研究科(工)6、東アジア研究科1、共同獣医学研究科1）

経済的困窮学生に授業料を支援（返還不要） 4人 107万円

● 半期分授業料 上限267,900円

学部学生4人：前期1人（工学部1）、後期3人（理学部1、医学部1、工学部1）

海外留学経費の一部を支援 160人 1,312万円

● 海外留学経費支援（前期分）

学部学生154人（人文学部11、教育学部4、経済学部23、医学部・医学系研究科20、工学部・創成科学研究科(工)34、農学部・創成科学研究科(農)9、共同獣医学部・共同獣医学研究科11、国際総合科学部42）

● IELTS・TOEFL支援 学部学生6人（国際総合科学部6）

大会等で優秀な成績を挙げた課外活動、団体への支援 4団体 40万円

卓球部：第63回全国国立大学卓球大会 男子団体戦準優勝

第74回中国学生卓球選手権大会秋季大会 男子シングルス優勝、男子ダブルス優勝 他

水泳部：第58回中国四国学生水泳選手権大会 女子200m背泳ぎ第1位 他、

第54回中国四国学生選手権水泳競技大会・第53回中国四国国立大学選手権水泳競技大会 女子200m背泳ぎ第1位 他

将棋部：第107回・第108回中四国学生将棋大会（団体戦A級 優勝）、2023年度全日本学生将棋名人戦出場

自動車部：2023年度全中四国学生ダートトライアル選手権大会（女子団体の部 優勝）

その他学生支援事業 13件 238.6万円

● 学生の自主的活動 6件 計59万円

経済学部2年：「地域に根ざしたイルミネーションをしよう！」プロジェクト活動

経済学部4年：「地域課題発見プロジェクト「山口新発見伝」—山口市観光における学際連携と地域共創」

医学部6年：「山口県産農産品からつくる新医薬品～山口から世界へ～での研究活動」

工学部3年：「宇部市における農業とITを通じた地域活性化と子ども支援活動」

創成科学研究科(工)前期課程2年：「マルシェにおける簡易テナントの提案とその作成」

国際総合科学部2年：「Future Design Project～国際総合科学部2年生による高校でのキャリア教育活動～」

● 学生の就職支援・教育環境の改善等 2件（教育・学生支援機構） 計159.6万円

● YU学生アイデアコンテスト2024 5件 20万円

表彰 最優秀賞：1件 10万円 経済学部「学生と地域をつなぐプラットフォームサービス」

優秀賞：3件 各3万円 経済学部「パン屋の利便性の向上による経営改善」

経済学部「山口大好き大作戦～定住人口増加を統計的有意な項目から効果的な提案を行う～」

経済学部「古民家×鉄道模型～山口線発 次世代カフェへの挑戦～」

審査員特別賞：1件 1万円 農学部「地域密着型代行配車システム」

- 若手研究者研究プロジェクト 1人当たり上限20万円 21人 計417万円
 - *研究者6人：創成科学研究科(理)1、医学系研究科(医)1、創成科学研究科(工)1、共同獣医学部2、国際総合科学部1
 - *博士後期課程学生15人：医学系研究科2、創成科学研究科(理)5、創成科学研究科(工)6、東アジア研究科1、共同獣医学研究科1
- 名誉教授研究プロジェクト 1人当たり20万円 4人 計80万円
 - *名誉教授4人：理学部1、工学部1、農学部1、共同獣医学部1
- 学術講演会等開催 1件当たり上限 国内：20万円 国際：40万円 9件 計175.6万円
 - *教育学部2、工学部1、共同獣医学部1、国際総合科学部1、医学系研究科1、創成科学研究科(工)1、大学研究推進機構2
- 出版支援事業 1件当たり20万円 1人 計20万円 *名誉教授(理)1
- 国際交流・海外学術交流等支援事業・留学生との交流に関する支援事業 2件 計399.4万円
- 地域連携・地域貢献活動事業 1件当たり10万円 6件 計50万円
 - *医学系研究科(医)1、創成科学研究科(理)1、創成科学研究科(工)1、共同獣医学部1、医学部附属病院1、教育・学生支援機構1

宇部市ふるさと納税のご案内

*返礼品無しのため、宇部市在住の方もご寄附いただけるふるさと納税です。

山口大学(医学部・医学部附属病院・工学部)は、宇部市と高等教育機関とが連携し人材育成事業を応援する『未来を創る「革新の種」育成ふるさと寄附』制度に参加しています。教育機関と地域が一体となり、将来の地域社会を担う優れた人材の育成と地域の持続的な発展を目指します。いただいたご寄附は、宇部市が行う若者支援事業費等を除いた7割がご指定の学部等に交付され、以下に掲げる人材育成支援事業に活用します。

医学部

先進的で独自の教育カリキュラムによりバランス感覚に優れ、高い人間力を持ち、医療の国際化に対応し社会に貢献できる医療人材の育成を目指します。

- 学生の海外留学支援
- 修学環境の充実
- 地域医療を学ぶ機会の充実
- 学外の専門家による特別講演の実施
- 課外活動の充実

医学部附属病院

山口県の医療を支えるチーム山口のリーダーとして医療マインドを持ち国際基準の優れた技術と温かいホスピタリティを備えた人材の育成を目指します。

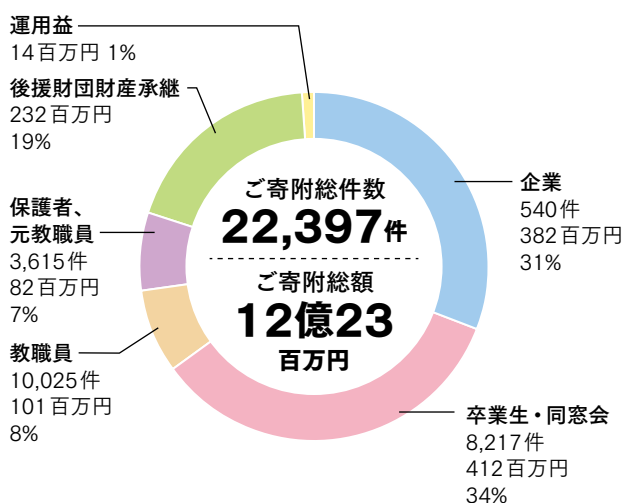
- 海外留学支援
- 人材育成環境の充実
- 研修会・学会等への参加に関する支援
- 最先端分野の専門家による特別講演や高難度手術の見学等の実施
- 高度な研究力を備えた人材育成のための支援

工学部

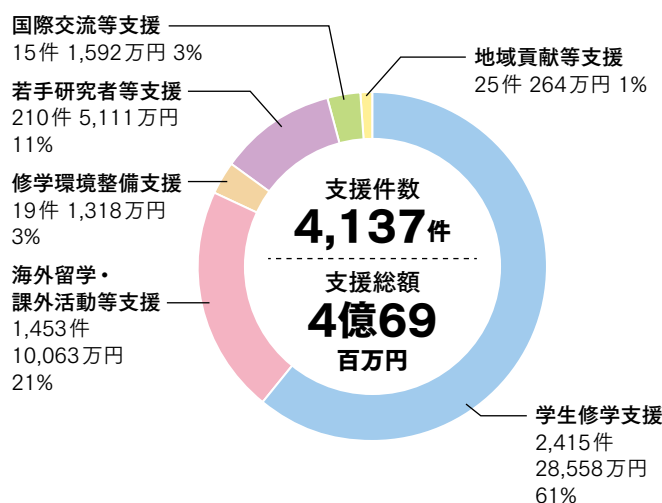
持続可能な社会の実現に向けて、新たな社会価値の創造に挑戦し、未来社会を牽引する工学系人材の育成に取り組んでまいります。また、Society5.0の実現に向けて、より便利で、より安全で、より豊かな未来を提供する工学系人材の輩出を目指します。

- グローバルエンジニア人材育成支援
- デジタル(高度情報)人材育成支援
- イノベーション人材育成支援
- 研究者支援

寄附実績(令和6年度末現在)



支援実績(令和6年度末現在)



山口大学基金に関する
お問合せ

山口大学基金事務局

Tel 083-933-5622 Fax 083-933-5624
kikin@yamaguchi-u.ac.jp



夢に挑戦、社会に貢献する山大大



ホスピタルアートが彩を添える外来エントランス

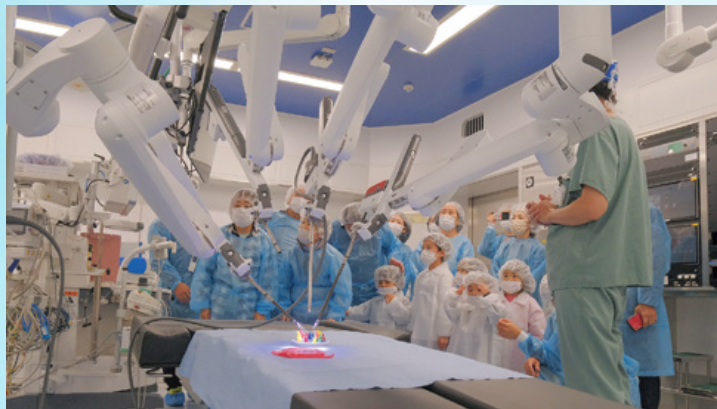


分かりやすい動線と待合スペースを整備した外来

本院は、山口県内で唯一の特定機能病院、また大学病院としての役割を果たすべく、高度・先進医療の提供、及び医療人の育成に努めています。2014年には地域医療の将来を見据え、国立大学病院として初となる2回目の再開発整備事業をスタートしました。

2度目の再開発整備事業が終了

2025年9月、足かけ11年にわたる事業が完了しました。長らくご協力いただいた皆様へ感謝の思いを伝えるため、11月8日(土)に「山大大病院感謝祭」を開催。約1,600名が来場され、改めて地域の皆様に支えられていることを実感する機会となりました。



手術支援ロボットの操作体験



感謝祭のフィナーレを飾る餅まき

県内初の3つの取り組み

2025年度は次の3つについて、本院が山口県内で初めて取組を開始しました。

- ・ **CAR-T細胞療法**の導入：再発難治性の悪性リンパ腫や多発性骨髄腫等に対する、新しい免疫療法を開始しました。
- ・ **植込型補助人工心臓(VAD)**への対応：管理施設の認定を取得し、2月より診療を開始しました。
- ・ **ドナーミルク**の利用開始：4月より、早産児や極低出生体重児を対象に「母乳バンク」の提供が可能になりました。



植込型補助人工心臓(VAD)管理チーム

病院 ～高度医療の維持と経営の持続可能性に向けて～

地域医療への貢献

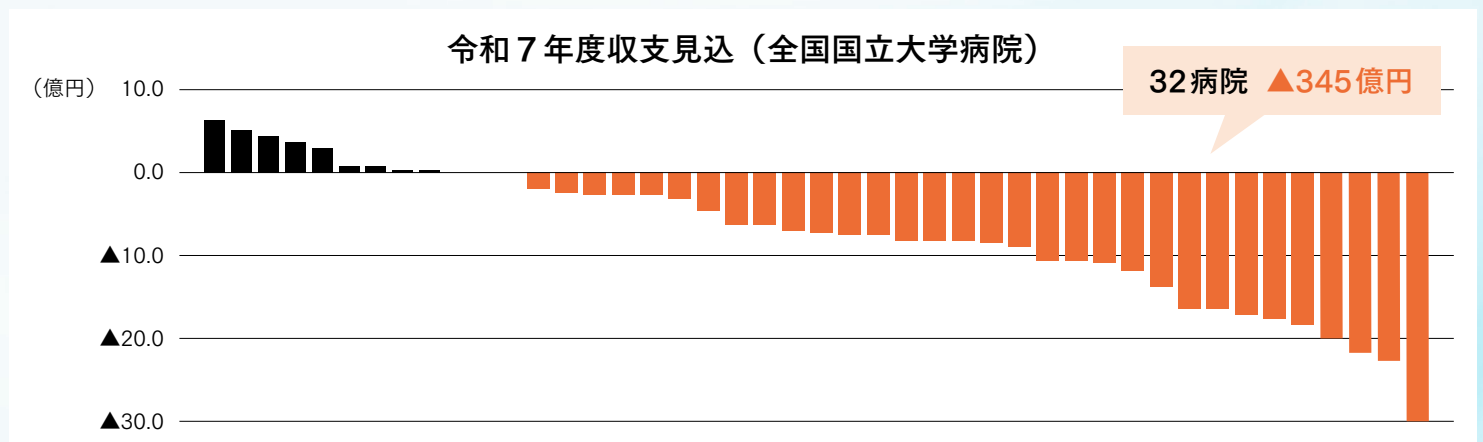
本院の治療等について、市民の皆様にわかりやすく紹介する公開講座「知っちゃる？ 山大病院」を2025年度より開催しました。年5回の開催で、約500名が参加されました。



毎回多くの方が熱心に聴講されます

かつてない危機的財政状況

本院では、山口県の地域医療における最後の砦として、高度・先進医療の提供に努めています。一方で、医療の高度化に伴う高額医薬品等の使用による医療費の増加や、物価・エネルギー価格の高騰等の影響により、厳しい財政状況下での経営を余儀なくされています。



【出典】令和7年度国立大学病院収支見込等調査(第3回)

学部間連携によるコスト削減

厳しい状況下ですが、コスト削減による経営改善に向け、自助努力による新たな試みも始めています。その一つが、栄養治療部と本学農学部のコラボレーションです。農学部の実習の一環で生産した野菜の一部を、本院の病院食に活用する取り組みを始めました。患者さんからは「おいしかった」「良い取り組みだと思ふ」などの感想をいただきました。

持続可能な医療を目指して

本院では持続可能な地域医療の実現のため、安心・安全な高度・先進医療の提供に努めてまいります。本院が未来に向けて発展していくために、皆様の温かいご支援を引き続きよろしく願いいたします。



農学部学生が生産した野菜を病院食に活用

Yamaguchi University Data Sheet

— 山口大学データ集 —



山口大学の気になる数字

卒業生・大学院 学位授与者数

累計 **131,731**人

(令和7年3月31日現在)

日本全国、世界各国の幅広い分野で活躍中

学生数

10,019人

(令和7年5月1日現在)

学部生8,541人、修士課程1,022人、
博士課程377人、専門職学位課程79人

教職員数

4,076人

(令和7年5月1日現在)

特命理事1人、教員1,084人、事務職員449人、
技術職員79人、医療職員273人、看護職員896人、
その他職員199人、非常勤職員1,095人

学部・大学院

9学部+**1**学部

(令和8年度～)

人文、教育、経済、理、医、工、農、
共同獣医、国際総合+情報(令和8年度～)

起源

1815年

山口大学は、東京大学・東北大学に次いで
日本で3番目に歴史のある大学

江戸時代後期1815(文化12)年、長州藩士・上田鳳陽によって創設された私塾・
山口講堂が前身

1学環

ひと・まち未来共創

7研究科

人間社会科学、教育学、医学系、
創成科学、東アジア、技術経営、
共同獣医学

面積

土地 **1,102,964**m²

(令和7年5月1日現在)

建物 建面積 **142,234**m²

延面積 **427,998**m²

総面積は東京ディズニーランド※の2倍以上!

国際交流

協定数

34カ国・地域、**172**機関

(令和7年5月1日現在)

外国人留学生数 **34**カ国・地域 **408**人

(令和7年5月1日現在)

海外派遣学生数 **314**人

(令和6年度)

外国人教職員数 **56**人

(令和7年5月1日現在)

研究

科学研究費助成事業

採択数 **470**件

交付金額 約**9.6**億円

採択率 **28.8%**

(令和7年10月31日現在)

論文数

3,810件

(令和4年～令和6年 累計)

国内特許保有件数

361件

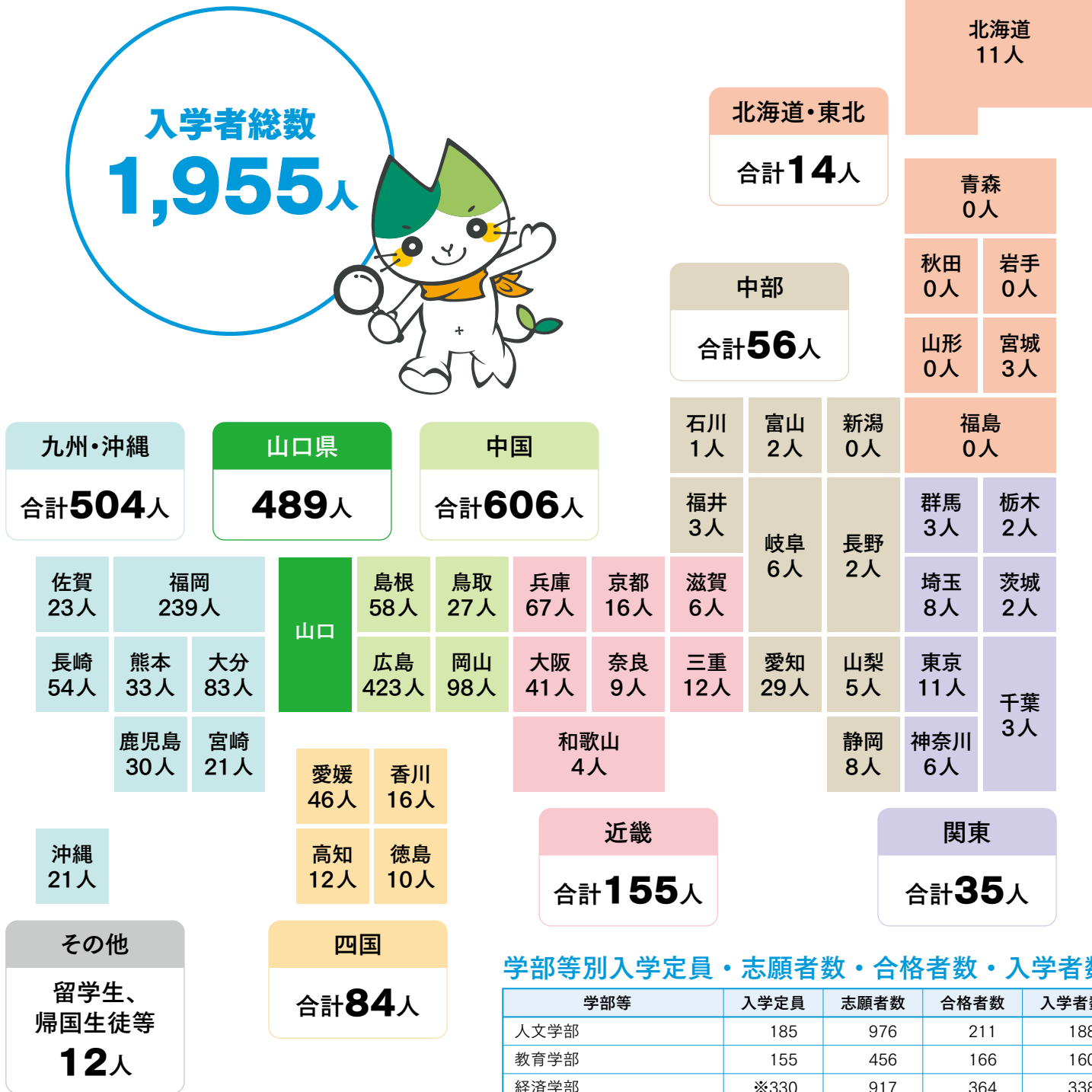
(令和7年3月31日現在)

※「東京ディズニーランド」は米国法人ディズニーエンタープライゼス・インクの登録商標です。

入学志願者・入学状況 (令和7年度)

■ 入学者の都道府県別分布 (出身高校所在地による)

入学者総数
1,955人



学部等別入学定員・志願者数・合格者数・入学者数

学部等	入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
人文学部	185	976	211	188
教育学部	155	456	166	160
経済学部	※330	917	364	338
理学部	220	1,108	250	221
医学部	229	1,130	242	232
工学部	530	1,706	608	538
農学部	100	293	109	103
共同獣医学部	30	248	31	30
国際総合科学部	※100	253	111	102
ひと・まち未来共創学環	※40	268	45	43
合計	1,919	7,355	2,137	1,955

※学部等連係課程であるひと・まち未来共創学環の入学定員は、経済学部及び国際総合科学部の学則上の入学定員の内数。

上表において、経済学部及び国際総合科学部の入学定員は、ひと・まち未来共創学環の入学定員を除いた数を掲載。

卒業生・修了者の就職状況 (令和6年度)

学部

産業別分類		学部	人文	教育	経済	理学	医学	工学	農学	共同 獣医	国際 総合	全体
卒業生(人)			185	186	324	189	237	522	89	33	100	1,865
進学者・留学者等(人)※			8	20	5	81	14	365	43	2	5	543
就職者(人)※			157	162	302	97	215	151	43	30	94	1,251
就職者内訳(%)	建設業		5.1	1.9	3.6	6.2	0.0	33.1	2.3	0.0	2.1	6.5
	製造業		5.1	1.2	9.6	15.5	0.0	19.2	16.3	0.0	14.9	8.3
	情報通信業、運輸業、郵便業		10.8	3.7	12.9	18.6	0.0	11.9	7.0	0.0	19.1	9.5
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業		14.6	2.5	9.9	4.1	0.0	1.3	18.6	0.0	20.3	7.3
	金融・保険業		5.1	3.1	19.3	5.2	0.0	0.7	2.3	10.0	6.4	7.0
	医療、福祉		5.1	2.5	1.7	1.0	99.5	0.0	2.3	0.0	1.1	18.6
	教育、学習支援業		17.8	76.4	2.3	17.5	0.0	0.0	2.3	6.7	2.1	14.5
	複合サービス事業、サービス業		10.2	3.1	15.6	21.6	0.5	7.3	9.3	53.3	19.1	11.1
	公務		18.6	3.7	17.2	6.2	0.0	19.9	30.3	30.0	3.2	11.8
	その他		7.6	1.9	7.9	4.1	0.0	6.6	9.3	0.0	11.7	5.4

大学院

産業別分類		研究科	人文 科学	教育学 (修士)	教育学 (専門職)	経済学	創成科学 (博士前期 ・修士)	医学系 (博士 前期)	技術 経営	創成科学 (博士 後期)	医学系 (博士 後期)	東アジア	共同 獣医学	全体
修了者(人)			8	8	15	26	424	9	15	30	28	12	13	588
進学者・留学者等(人)※			0	0	0	4	25	0	4	0	0	0	0	33
就職者(人)※			5	8	15	18	391	8	11	27	27	4	12	526
就職者内訳(%)	建設業		0.0	0.0	0.0	0.0	11.0	0.0	18.2	7.4	0.0	0.0	0.0	8.9
	製造業		0.0	0.0	0.0	0.0	53.1	12.5	45.4	14.8	0.0	0.0	0.0	41.6
	情報通信業、運輸業、郵便業		0.0	12.5	0.0	5.5	16.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	0.0	12.9
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業		20.0	0.0	0.0	16.7	1.3	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	金融・保険業		0.0	0.0	0.0	16.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	医療、福祉		0.0	25.0	0.0	0.0	0.3	50.0	0.0	3.7	92.6	0.0	0.0	6.3
	教育、学習支援業		20.0	0.0	100.0	16.7	1.0	0.0	0.0	29.7	7.4	75.0	50.0	8.2
	複合サービス事業、サービス業		20.0	0.0	0.0	5.5	9.2	25.0	9.1	25.9	0.0	0.0	25.0	9.5
	公務		20.0	62.5	0.0	0.0	2.3	12.5	0.0	0.0	0.0	25.0	8.3	3.6
	その他		20.0	0.0	0.0	38.9	5.4	0.0	18.2	7.4	0.0	0.0	16.7	6.3

大学院(全体)

産業別分類	修士・ 博士前期	博士 後期	
修了者(人)	505	83	
進学者・留学者等(人)※	33	0	
就職者(人)※	456	70	
就職者内訳(%)	建設業	9.9	2.9
	製造業	46.9	7.1
	情報通信業、運輸業、郵便業	14.3	4.3
	卸売・小売業、宿泊業、飲食サービス業	2.2	0.0
	金融・保険業	0.9	0.0
	医療、福祉	1.5	37.1
	教育、学習支援業	5.0	28.5
	複合サービス事業、サービス業	9.0	12.9
	公務	3.5	4.3
	その他	6.8	2.9

※「進学者・留学者等」、「就職者」には留学生及び有職者を含む。



Web



<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/>

X



ID
@YamaguchiU_koho

Facebook



山口大学
(Yamaguchi University)

YouTube



山口大学広報室
チャンネル

山口大学レポートに関するご意見等をお寄せください。

✉ yu-info@yamaguchi-u.ac.jp